対象 判定	е
□ □ 1 契約締結後、1 4 日以内に契約工程表及び請負代金内訳書が提出された。 □ □ 2 【2,000万円以上】コリンズについて、事前に監督職員の確認を受け、契約締結後 1 0 日以内に登録機関に申請した。 □ □ 3 【500万円以上2,000万円未満】コリンズについて、事前に監督職員の確認を受け、契約締結後 1 0 日以内に登録機関に申請した。 □ □ 4 現場代理人等通知書が不備なく 1 4 日以内に提出された。 □ □ 5 建設業退職金共済証紙購入状況報告書(写しも可)を契約締結後 1 ヶ月以内に提出した。	適切である
□ 6 諸政策退職金共新施度対象機秘告書 (写しも可)を工事完成通過者とあわせて提出した。 □ 7 諸政策選組金共務制度以外 (中小企業退職金共務制度等) の退職金制度に加入していることが確認できる。 □ 9 労災保険関係成定票を現場の見やすい場所に掲示している。 (大きさ (25cm× 35cm以上) も適正である。) □ 10 諸政策計可を受けたことを示す標識を公衆の見やすい場所に設置し、監理(主任) 技術者を正しく記載している。 (大きさ (25cm× 35cm以上) も適正である。) □ 11 施工体制台帳を可場に備え付け、かつ、同一のものを提出した。 □ 12 施工体制台帳後で再は「務負契約書(写)及び再下請負金加書を添付している。 □ 13 施工体制台帳をでいる (写) 及び再下請負金加書を添付している。 □ 14 施工体系図を現場の「社会保険参加入状況」に、加入又は適用除外であることを記載している。 □ 15 施工体系図を現場の工事関係者及び公衆の見やすい場所に掲示している。 □ 16 施工体系図を現場の工事関係者及び公衆の見やすい場所に掲示している。 □ 16 施工体系図に記載されている書かれている書かれている書かれているものが集ましている。 □ 16 施工体系図に記載されている登理(主任) 技術者及が施工計画書に記載されている技術者が本人である。 □ 17 元請負人が下請の作業成果(出来形、出来高等)を建設し検査している。 □ 18 緊急指示、災害、事故等が発生した場合の対応が速やかである。 □ 19 その他 □ 理由: ■ 判断基準 ■ 評価値が90%以上・・・・・ a 評価値が90%以上・・・・ a 評価値が80%以上90%未満・・・ b 評価値が80%以上90%未満・・・ b 評価値が80%以上90%未満・・・ c	本制一般に関して、 動からの文書に を持たっ

別紙1-②

考査項目別運用表

考査項目	細別	а	b	С	d	е
1. 施工体制	Ⅱ. 配置技術者	適切である	ほぼ適切である	他の評価に該当しない	やや不適切である	不適切である
1	(現場代理人等)	対象 判定	。もしくは、速やかに連絡が取れる体制にあり、業 絡を適時及び的確に行っている。 いる。。。 。 雇用関係等)が資格者証等により確認できた。 通知書に記載された技術者が本人と同一であった。 者が現場に専任していた。 工事に係る工程、技術的事項を把握し、主体的に係 ち、創意工夫又は提案をもって工事を進めている。	務に支障がない。	□ 配置技術者に関して、監督員が文書による改善指示を行った。	□ 配置技術者に関して、監督員からの文書による改善指示に従わなかった。
		●判断基準 評価値が90%以上・・・・・・ a 評価値が80%以上90%未満・・・・ b 延価値が80%よ業満・・・・・ c	西対象項目が当該工事において評価の対象となる場合 レ」印を記入した項目について該当する場合は「判定 象欄に「レ」印のある項目数を分母として比例計算の 面値 (%) =該当項目数()/評価対象項 お、評価対象項目数が2項目以下の場合はc評価とす た、文書による改善指示を行った場合には、上記評価 /評価対象項目数	」欄の□に「レ」印を記入する。 値で評価する。 目数 () る。	とならない場合は空欄とする。	

考査項目	細別	а	b	С	d	е
2. 施工状況	I. 施工管理	適切である	ほぼ適切である	他の評価に該当しない	やや不適切である	不適切である
2. 施工状況	I. 施工管理	対象 判定	5号に係わる設計図書の照査を行っている。 る場合、その事実が確認できる資料を書面により提 図書・現場条件等を反映した施工計画書を提出した 法が一致している。 制が一致している。 事前に承認された材料を適切に管理している。 工計画書に基づき実施し、その結果が書面で確認で 施工計画書に基づき実施し、その結果が書面で確認 いる。 前に発議され、適切に実施された。	出して確認を受けた。 。 きる。 できる。 いることが確認できる。 画書に含め提出した。	やや不適切である 応工管理に関して、監督 員が文書による改善指示を行った。	不適切である
		●判断基準 評価値が90%以上・・・・・a 評価値が80%以上90%未満・・・・b 評価値が80%未満・・・・・・c ⑥ また	、評価対象項目数が2項目以下の場合はc評価とする 、文書による改善指示を行った場合には、上記評価に	欄の口に「レ」印を記入する。 『で評価する。 数 ()	 とならない場合は空欄とする。	

	考査項目	細別	а	b	С	d	е
2	2. 施工状況	Ⅱ. 工程管理	適切である	ほぼ適切である	他の評価に該当しない	やや不適切である	不適切である
		a. Tuba	対象 判定 □ 1 実施工程表が工事着手前に提出され、 □ 2 現場での工程管理を詳細工程表やパー □ 3 変更工程表が適時に更新された。 □ 4 現場条件変更への対応が迅速で、施	、関連工事との調整も適切に行っている。 ソコン等を用いて日常的に把握している。 エの停滞が見られない。 約への対応が適切であり、大きな工程の遅れが無い がない。		□ 工程管理に関して、監督 員が文書による改善指示 を行った。	□ 工程管理に関して、監督 員からの文書による改善 指示に従わなかった。
			●判断基準 評価値が90%以上・・・・・・a 評価値が80%以上90%未満・・・b 評価値が80%よ満・・・・・c	ン」印を記入した項目について該当する場合は「判定 象欄に「レ」印のある項目数を分母として比例計算の 価値(%)=該当項目数()/評価対象項 お、評価対象項目数が2項目以下の場合は。評価とす に、文書による改善指示を行った場合には、上記評価	値で評価する。 目数 () る。	とならない場合は空欄とする。 ととならない場合は空欄とする。	

考査項目	細別	а	b	С	d	е
2. 施工状況	Ⅲ. 安全対策	適切である	ほぼ適切である	他の評価に該当しない	やや不適切である	不適切である
2. 施工状况	Ⅲ. 安全对策	対象 判定	月以上の活動記録がある。 現場に即した内容で実施した記録がある。 映した内容で実施した記録がある。 た記録がある。 ある。 ある。 との行動範囲の分離措置がなされた点検記録等があ の設置完了時や使用中の点検及び管理がチェックリ 準及び関係者間協議に基づき実施している。 防止対策に取り組んでいる。 通誘導警備員の配置、誘導が行われた。	ర ం	やや不適切である 安全対策に関して、監督 員が文書による改善指示を行った。	不適切である 安全対策に関して、監督 員からの文書による改善 指示に従わなかった。
		●刊町基準 評価値が90%以上・・・・・ a 評価値が80%以上90%未満・・・ b 延価値が80%以上第	レ」印を記入した項目について該当する場合は「判定 象欄に「レ」印のある項目数を分母として比例計算の 価値(%)=該当項目数()/評価対象項 お、評価対象項目数が2項目以下の場合は。評価と た、文書による改善指示を行った場合には、上記評価	値で評価する。 目数() る。	まとならない場合は空欄とする。 	

別紙1-⑥

考查項目別運用表

考査項目	細別	а	b	С	d	е
2. 施工状況 I	Ⅳ. 対外関係	適切である	ほぼ適切である	他の評価に該当しない	やや不適切である	不適切である
		対象 判定	ルの発生が無い。 生が無い。 、苦情に対して適切な対応を行っている。 捗に取り組んでいる。 どにより地域住民や通行者等に分かりやすく周知し		□ 対外関係に関して、監督 員が文書による改善指示 を行った。	対外対策に関して、監督 員からの文書による改善 指示に従わなかった。
		●判断基準 ② 「L 評価値が90%以上・・・・・ a 評価値が80%以上90%未満・・・・ b 延価値が80%よ業・・・・・ 5 なお	ン」印を記入した項目について該当する場合は「判定 根欄に「レ」印のある項目数を分母として比例計算の 値(%)=該当項目数() /評価対象項 5、評価対象項目数が2項目以下の場合は。評価とす こ、文書による改善指示を行った場合には、上記評価	値で評価する。 目数 () る。	とならない場合は空欄とする。	

(監督員)

考査項目	а	b	С	d	е
3. 出来形及び出来映え I. 出来形一①	□ 出来形の測定が、必要な測定項目について所定の 測定基準に基づき行われており、測定値が規格値 を満足し、そのばらつきが規格値の概ね50%以 内である。	□ 出来形の測定が、必要な測定項目について所定 の測定基準に基づき行われており、測定値が規 格値を満足し、そのばらつきが規格値の概ね8 0%以内である。	□ 出来形の測定が、必要な測定項目について所定 の測定基準に基づき行われており、測定値が規 格値を満足し、a、bに該当しない。		□ 契約書第16条に基づき、監督員が改造請求を行った。
	当該管理基準によりがたい場合等につ ④ 試験結果の打点数等が少なく(原則3点未				

別紙1-⑦-2

考査項目別運用表

考査項目	а	b	С	d	е
	適切である	ほぼ適切である	他の評価に該当しない	□ やや不適切である	□ 不適切である
3. 出来形及び出来映え	該当項目 5	該当項目3以上	該当項目3未満	出来形の測定方法又は測定値	契約書第16条に基づき、監
I. 出来形-② ばらつき判 断対象外の 工事	判定	いる。(管理基準値又は規格値の80%より上位) 来形と一致している。		が不適切であったため、監督 員が文書で改善指示を行っ た。	督員が改造請求を行った。
	該当項目が5個・・・・・a 該当項目が3個以上・・・・b 該当項目が3個未満・・・・・c ③	出来形の評定は、工事全般を通じて評定するものとす 出来形とは、設計図書に示された工事目的物の形状及 出来形管理とは、「土木工事施工管基準」の測定項 当該管理基準によりがたい場合等については、監督員 なお、文書による改善指示を行った場合には、上記評	び寸法をいう。 目、測定基準及び規格値に基づき所定の出来形を確f と協議の上で出来形管理を行うものである。	呆する管理体系であるが、	

考査項目	工種	а	b	С	d	е
3. 出来形及	水道施設工事	適切である	ほぼ適切である	他の評価に該当しない	やや不適切である	不適切である
び出来映え I. 出来形一 ③		□ 2 全般にわたり、形状及び寸法の実測 □ 3 施工管理基準の撮影記録が撮影基準 □ 4 設計図書で定められていない出来形 □ 5 不可視部分の出来形を写真撮影して	ることが確認できる。(管理基準値または規格値の	ঠ ক	□ 出来形の測定方法又は測定値が不適切であったため、監督員が文書で改善 指示を行った。	□ 契約書第16条に基づき、監督員が改造請求を 行った。
		●判断基準 評価値が90%以上・・・・・・ a 評価値が80%以上90%未満・・・ b 証価値が80%以上90%未満・・・ b	価対象項目が当該工事において評価の対象となる場合 レ」印を記入した項目について該当する場合は「判定 象欄に「レ」印のある項目数を分母として比例計算の 価値(%)=該当項目数()/評価対象項 お、評価対象項目数が2項目以下の場合は。評価とす た、文書による改善指示を行った場合には、上記評価 /評価対象項目数 0 評価対象項目数が	」欄の口に「レ」印を記入する。 値で評価する。 目数 () る。	とならない場合は空欄とする。	

別紙1-8-1

考査項目別運用表

考査項目	а	b	С	d	е	
	適切である	ほぼ適切である	他の評価に該当しない	□ やや不適切である	□ 不適切である 契約書第16条に基づき、監督	
3. 出来形及び出来 映え Ⅱ. 品質-①	2 品質試験は、測定頻度、測定項目とも品質管	判定 1 調合を要する材料(コンケリート、アススアテルト、塗料等)の配合計画書等が事前に提出された。 2 品質試験は、測定頻度、測定項目とも品質管理基準に規定された必要数実施された。				
	I ≔	4 品質証明等の関連書類が全て揃っており、取りまとめが的確で明確に確認できる。 5 使用材料の保管管理状況に配慮があり、写真等で明確に確認できる。				
	●判断基準 該当項目が5個・・・・・・a 該当項目が3個以上・・・・・b 該当項目が3個未満・・・・・c					
	該当項目数 0					

考査項目	工種	а	b	С	d	е
3. 出来形及	水道施設工事	適切である	ほぼ適切である	他の評価に該当しない	やや不適切である	不適切である
び出来映え Ⅱ. 品質-②		□ 2 品質試験の結果が適切にまとめられ □ 3 材料等の品質規格証明書(配合表、 □ 4 材料等の搬入の証明となる資料が整け □ 5 材料等の品質証明に伴う試験方法は、 □ 6 調合を要する材料(コンクリート・	ミルシート、検査証明書等)が整理されていた。	けたものであった。 督員へ提出された。	□ 出来形の測定方法又は測 定値が不適切であったた め、監督員が文書で改善 指示を行った。	□ 契約書第16条に基づき、監督員が改造請求を 行った。
		●判断基準 評価値が90%以上・・・・・・ a 評価値が80%以上90%未満・・・・ b 証価値が80%以上90%未満・・・・ b	ン」印を記入した項目について該当する場合は「判定 R欄に「レ」印のある項目数を分母として比例計算の 価値 %)=該当項目数 () /評価対象項 6、評価対象項目数が2項目以下の場合は。評価とす と、文書による改善指示を行った場合には、上記評価	値で評価する。 目数 () る。	とならない場合は空欄とする。	

3. 出来形及び出来 権梁維持・修繕工事 (橋脚補強、耐寒機力・緩慢)	考査項目 細別	а	b	С	d	е
●判断基準 該当項目が5項目以上・・・a 該当項目が4項目・・・・ b 該当項目が3項目以下・・・ c 該当項目数 0 ※ 記載の4項目を必須の評価対象項目とし、この他に適宜項目を追加して評価するものとする。	3. 出来形及び出来 映え Ⅲ. 品質→③ ※上記によらず、 当該欄で評価	適切である ●該当する項目の□に「レ」印を記入する。 □ 1 常に緊急的な作業に対応できる体制を整 □ 2 緊急的な作業に対し、迅速に対応してい □ 3 監督員の指示事項に対し、現地状況を勘 □ 4 施工後のメンテナンスに対する提言や修 □ 理由: □ 理由: □ 理由: □ 理由: □ 理由: □ は ほが3項目以上・・・ は 該当項目が3項目以下・・・ な 該当項目数	ほぼ適切である えている。 る。 素し、施工方法や構造について提案を行うなど、 繕サイクル等を勘案した提案等を行っている。	他の評価に該当しない	── 値が不適切であったため、監 督員が文書で改善指示を行っ	□ 契約書第16条に基づき、監 督員が改造請求を行った。

考査項目	細別	I	夫	事	項
5. 創意工夫	I. 創意工夫	【施工】			【その他】
		□ 1 施工に伴う器具、工具、装置等に関する工夫又は設備据付後の試運転調整に関する工夫。			
		□ 2 コンクリート二次製品などの代替材の利用に関する工夫。			□ その他 □ 地場産業振興のため、市内製品を使用した。
		□ 3 土工、地盤改良、橋梁架設、舗装、コンクリート打設等の施工に関する工夫。			使用内容:
		□ 4 部材並びに機材等の運搬及び吊り方式などの施工方法に関する工夫。			
		□ 5 照明などの視界の確保に関する工夫。			□ その他 市産品企業の製品を使用した。又は活用した。
		□ 6 仮排水、仮道路、迂回路等の計画的な施工に関する工夫。			
		7 運搬車両、施工機械等に関する工夫。			
		□ 8 支保工、型枠工、足場工、仮桟橋、覆工板、山留め等の仮設工に関する工夫。			□ その他 自社施工または下請負業者は市内業者を使用した。
		□ 9盛土の締固度、杭の施工高さ等の管理に関する工夫。			
		□ 10 出来形又は品質の計測、集計、管理図等に関する工夫。			
		□ 11 施工管理ソフト、土量管理システム等の活用に関する工夫。			□ その他
		【品質】			
		□ 1 土工、設備、電気の品質向上に関する工夫。			□ その他 (
		□ 2 コンクリートの材料、打設、養生に関する工夫。			
		□ 3 鉄筋、PCケーブル、コンクリート二次製品等の使用材料に関する工夫。			
		□ 4 配筋、溶接作業等に関する工夫。			□ その他 (
		【安全衛生】			
		□ 1 建設業労働災害防止協会が定める指針等に基づく安全衛生教育を実施している。			□ その他 (
		※本項目は2点の加点とする。			
		□ 2 安全を確保するための仮設備等に関する工夫。(落下物、墜落・転落、挟まれ、看板、立入禁山	L柵、手摺	り、足均	2場等)
		□ 3 安全教育、技術向上講習会、安全パトロール等に関する工夫。			
		□ 4 現場事務所、労務者宿舎等の空間及び設備等に関する工夫。			
		□ 5 有毒ガス並びに可燃ガスの処理及び粉塵防止並びに作業中の換気等に関する工夫。			
		□ 6 一般車両突入時の被害軽減方策又は一般交通の安全確保に関する工夫。			
		□ 7 厳しい作業環境の改善に関する工夫。			
		□ 8環境保全に関する工夫。			
	評価	評 点: <u>0 点</u> チェック数 0			

- ※1. 特に評価すべき創意工夫事例を加点評価するものであり、最大7点とする。
- ※2. 該当する数と重みを勘案して評定する。1項目1点を目安とするが、内容によってはそれ以上の点数を与えてもよい。
- ※3. 上記の考査項目の他に評価に値する企業の工夫があれば、その他に具体の内容を記載して加点する。

考査項目	細別	а	а'	b		b'	С		d		е	
2. 施工状況	Ⅱ.工程管理	□ 優れている	□ bより優れている	□ やや優れている		cより優れている	──他の評価に該当しない	□ *	やや劣っている		劣っている	
		●該当する項目の□に「レ」印を	記入する。		-			-				
		□ 1 隣接する他の工事などと	この工程調整に取り組み、遅れを多	発生させることなく工事を完成され	せた。							
			整に取り組み、遅れを発生させる	ることなく工事を完成させた。								
		□ 3 工程管理を適切に行なっ	ったことにより、夜間工事の回避等	痔を行い、工事による地域への影 [₹]	響を軽減	させた。						
		□ 4 工程管理に係る積極的な	な取り組みが見られた。									
			I 期的な制約がある場合において、									
			こ点在している場合において、工程	呈管理を的確に行い、余裕をもっ ⁻	て工事を	完成させた。						
		□ 7 その他 (
		理由:				J						
		●判断基準	·····= ·									
		上記該当項目を総合的に判断し 	.τ、a、a'、b、b'、c、(d、e評価を行う。								
			,			. ,				1		
	Ⅲ. 安全対策	a □ 優れている	a'	b やや優れている		b' cより優れている	c 他の評価に該当しない	□ *	d やや劣っている	<u> </u>	e 劣っている	
		●該当する項目の□に「レ」印を		し、そで後れている		こより変れている	一一他の評価に該当しない	\ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \	でもあっている		あっている	
			むへりる。 &害の防止に向けた取り組みが顕え	ェブキット								
			と音の防止に向けた取り組みが顕れ りの管理体制を整備し、組織的に関									
			りの自空体的を歪偏し、起機的にあ り、他の模範となるような活動に和									
			ストロの快報となるような冶動に加 開発や創意工夫に取り組んだ。	見1をは11と4人グルロバンに。								
			5動に積極的に取り組んだ。 5動に積極的に取り組んだ。									
		□ 6 積極的に安全対策に係る										
		□ 7 その他 (5-10-7-4 <u>1</u> -17-2-5-43-6-7-10)						
		理由:										
		●判断基準										
		上記該当項目を総合的に判断して、a、a'、b、b'、c、d、e 評価を行う。										

考査項目 細別	対応事項	【事例】具体的な施工条件等への対応事例
4. 工事特性 I. 施工条件等対応	「本の」 I 構造物の特殊性への対応	(1. ICついて) 切土、盛土の土工量: 15万m3以上、護岸・築堤の平均高さ: 10m以上、トンネル(シールド)の直径: 8m以上、ダム用水門の設計水深: 25m以上、樋門又は樋管の内空断面積: 15m2以上、揚排水機場の吐出管径: 2,000mm以上、堰又は水門の最大径間長: 25m以上、堰又は水門の径間数: 3径間以上、堰又は水門の扉体面積: 50m2/門以上、トンネル(開削工法)の開削深さ: 20m以上、トンネル(NATM)の内空平均面積: 100m2以上、トンネル(沈埋工法)の内空平均面積: 300m2以上、地滑り防止工: 幅100m以上かつ法長150m以上、浚渫工の浚渫土量: 100万m3以上、流路工の計画高水流量: 500m3以上、砂防ダムの堤高: 15m以上、ダムの堤高: 150m以上、転流トンネルの流下能力: 400m3/s以上、橋梁下部工の高さ: 30m以上、橋梁上部工の最大支間長: 100m以上、転流トンネルの流下能力: 400m3/s以上、橋梁下部工の高さ: 30m以上、橋梁上部工の最大支間長: 100m以上(2. ICついて) ・砂防工事などにおいて、現地合わせに基づいて再設計が必要な工事。・鉄道に隣接した橋脚の耐震補強工事又は河道内の流水部における橋脚の撤去工事。・供用中の道路トンネルの拡幅工事。 ・供用中の道路トンネルの拡幅工事。 3. ICついて) ・その他、構造物固有の難しさへの対応が特に必要な工事。・その他、構造物固有の難しさへの対応が特に必要な工事。・その他、技術固有の難しさへの対応が終要である工事。・地山強度が低い又は土被りが薄いため、FEM解析などによる検討が必要な工事。
	■ 困難な作業環境、社会条件等への対応	・地田強度が低い又は工版りが薄いため、FEMRM などによる検討が必要な工事。 (4.について) ・供用中の鉄道又は道路と交差する橋梁などの工事。 ・市街地等の家屋密集地での、鉄道又は道路をアンダーパスする工事。 ・監視などの結果に基づき、工法の変更を行った工事。 ・活力を管理に基づき、工法の変更を行った工事。 ・地元調整や環境対策などの制約が特に多い工事。 ・そのほか各種制約があり、施工に特に厳しい制限を受けた工事。 ・ ものなのを間工事。 ・ D I D 地区での工事。 ・ D I D 地区での工事。 ・ 1 日交通管が概ね 1 万台以上の道路で片側交互通行の交通規制をした工事。 ・ 供用している自動車専用道路等の路上工事で、交通規制が必要な工事。 ・ 工事期間中の大半にわたって、交通開放を行うため規制標識の設置撤去を日々行った工事。 ・ 工事期間中の大半にわたって、交通開放を行うため規制標識の設置撤去を日々行った工事。 ・ 第数や災害発生直後の緊急的な対応が必要な工事で、2 4 時間対応の施工等により早期の完成が求められる工事。 (9. について) ・ 事故や災害発生直後の緊急的な対応が必要な工事で、2 4 時間対応の施工等により早期の完成が求められる工事。 (10. について) ・ 作業現場が広範囲に分布している工事。 (10. について) ・ 施工ヤードの広さや高さに制限があり、機械の使用など施工に制約を受けた工事。 ・その他、周辺環境又は社会条件への対応が特に必要な工事。
	Ⅲ厳しい自然・地盤条件への対応 11. 特殊な地盤条件への対応が必要な工事 12. 雨・雪・風・気温・波浪等の自然条件の影響が大きな工事 13. 被災箇所の措置や急峻な地形及び土石流危険渓流内での工事 14. 動植物等の自然環境の保全に特に配慮しなければならない工事 15. その他 理由: ※上記の対応事項に1つ以上レ点が付けば4点の加点とする。 □ 16. 12ヶ月を超える工期で、事故がなく完成した工事(全面一時中止期間は除く) ※但し、文書注意に至らない事故は除く。	(11. について) ・河川内の橋脚工事において地下水位が高く、ウェルポイント工法などによる排水や大規模な山留めなどが必要な工事。・支持地盤の形状が複雑なため、深礎杭基礎毎に地質調査を実施するなど支持地盤を確認しながら再設計した工事。 ・施工不可能日が多いことから、施工機械の稼働率や台数などを的確に把握する必要が生じた工事。 (12. について) ・河川区域内のため、設計書で計上する以上に波浪等の影響で不稼働日が多く、主に作業船や台船を使用する工事。 ・潜水夫を多用した工事又は波浪や水位変動が大きいため作業構台等を設置した工事。 (13. について) ・被災箇所における二次災害の危険性に対する注意が必要とされる工事。 ・急峻な地形のため、作業構台や作業床の設置が制限される工事。もしくは、命綱を使用する必要があった工事(法面工は除く)。 ・斜面上又は急峻な地形直下での工事のため、工事に伴う地滑り防止対策等の安全対策を必要とした工事。 ・土石流危険渓流に指定された区域内における工事。 (14. について) ・イヌワシ等の猛禽類などの貴重な動植物への配慮のため、工程や施工方法に制約を受けた工事。 (15. について) ・その他、自然条件又は地盤条件への対応が必要であった工事。 ・その他、災害等における臨機の措置のうち特に評価すべき事項が認められる工事。
評価	□ 17. その他 (理由: ※上記の対応事項に1つ以上レ点が付けば6点の加点とする。	

※1. 工事特性は、最大20点の加点評価とする。

別紙2-3

考查項目別運用表

考査項目	細別	а	a'	b	b'	С					
6. 社会性等	I. 地域への貢献	優れている	bより優れている	やや優れている	Cより優れている	他の評価に該当しない					
		該当項目5以上	該当項目 4	該当項目3	該当項目 1 以上	該当項目なし					
		●該当する項目の□に「レ」印を記入する。									
		□ 1 現場付近のごみ拾い、清掃作業を毎	月1回以上行った。(現場内は含まない)								
		□ 2 現場付近の地域活動にボランティア	として参加した。								
		□ 3学校や警察と連携した子ども110	番の掲示等で、児童や地域住民の安全に貢献	した。							
		□ 4 現場事務所や作業現場の景観を周辺地域との景観に合わせる等、積極的に周辺地域との調和を図った。									
		□ 5 地域住民への工事進捗状況の回覧等を定期的に行った。(月1回以上)									
		□ 6 地域住民へ現場見学会を行った。									
		□ 7 ホームページ等で最新の工事情報を	掲載し、併せホームページ等の周知を行った	0							
		┃□ 8 インターンシップや職場体験等を実	施し建設業への就労意識向上に貢献した。								
		□ 9 工事施工箇所付近において公共施設	の点検、簡易的な補修をした。								
		□ 10 災害時などにおいて、工事現場付近	での支援又は行政などによる救援活動への積	極的な協力を行った。							
		□ 11 建設用資材や物品等の納入、借入れ	にあたっては、市内業者を選定した。								
		□ 12 下請業者は市内業者から選定した。									
		│□ 13 その他 │									
		理由:		J							
		●判断基準									
		該当項目が5個以上・・・・・a									
		該当項目が4個・・・・・・a′									
		該当項目が3個・・・・・・b									
		該当項目が1個以上・・・・・b'									
		該当項目なし・・・・・・c									
		該当項目数 0 施工記	十画書及び工事打合せ記録等の書面により事前	抗協議で確認できたものに限る。							

有 登垻日	太 守 遵 寸 寺 の 該:	当 埧 日 一 莧 表	
7. 法令遵守等	●該当する項目の□に「レ」印を記入する。		
	措 置 内 容	点 数	
	□ 1. 指名停止3ヶ月以上	— 20 点	
	□ 2. 指名停止2ヶ月以上3ヶ月未満	— 15 点	
	□ 3. 指名停止 1 ヶ月以上 2 ヶ月未満	— 13 点	
	□ 4. 指名停止 2 週間以上 1 ヶ月未満	— 10 点	
	5. 文書注意	一 8 点	
	□ 6. 口頭注意	- 5点	
	□ 7. 工事関係者事故又は公衆災害が発生したが、当該事故に係る安全管理の措置の不適切な程度が軽微なため、 □頭注意以上の処分が行われなかった場合	一 3 点	
	□ 8. 総合評価方式における技術資料の内容の履行状況	- 0点	
	□ 履行 □ 不履行		
	☑ 9. 項目該当なし		
	 ① 本考査項目 (7.法令遵守等) で評価する事例は、施工にあたって工事関係者が下記の適応事例で上表の措置があって、「施工」とは、請負契約書の記載内容 (工事名、工期、施工場所等) を履行することに限定する。 ③ 「工事関係者」とは、当該工事現場に従事する現場代理人、監理技術者、主任技術者、請負会社の現場従事職員及 ④ 総合評価方式における技術資料の内容が、受注者の責により履行されなかった場合は、8. で減点措置を行う。※不履行となった評価項目が1つの場合は5点減点、2つ以上の場合は10点減点とする。 【上記で評価する場合の適応事例】 入札前に提出した調査資料などにおいて、虚偽の事実が判明した。 承諾なしに権利又は義務を第三者に譲渡又は承継した。 使用人に関する労働条件に問題があり送検された。 廃棄物処理法に違反する不法投棄、砂利採取法に違反する無許可採取等の関係法令に違反する事実が判明した。 当該工事関係者が贈収賄などにより逮捕又は公訴された。 一括下請や技術者の専任違反等の建設業法に違反する事実が判明した。 入国管理法に違反する外国人の不法就労者が判明し、送検された。 労働基準法に違反する事実が判明し、送検等された。 監督又は検査の実施を、不当な圧力をかけるなどにより妨げた。 下請代金を期日以内に支払っていない、不当に下請代金の額を減じているなど下請代金支払遅延等防止法第4条に 受注企業の社員に「指定暴力団又は「指定暴力団の傘下組織(団体)」に所属する構成員、準構成員、企業舎: 不請に暴力団関係企業が入っていることが判明した。あるいは、「暴力団員による不当な行為の防止等に関する。土木作業員やガードマンの受け入れ、土木作業員用の自動販売機の設置等を行っている事実が判明した。 大作業員やガードマンの受け入れ、土木作業員用の自動販売機の設置等を行っている事実が判明した。 全管理が不適切であったことから死傷者を生じさせた工事関係者事故又は重大な損害を与えた公衆損害事故をはたれて確切であったことから死傷者を生じさせた工事関係者事故又は重大な損害を与えた公衆損害事故をはたれて確切をあったことから死傷者を生じさせた工事関係事報及び建設機械等で不正軽油を使用している事実が判明した。 	び当該工事にあたって下請契約し、 に規定する親事業者の遵守事項に違 弟等の暴力団関係者がいることが判 法律」第9条に記されている砂利、	反する行為がある。

考査項目	細別	а	b	С	d	е
2. 施工状況	I. 施工管理	優れている	やや優れている	他の評価に該当しない	やや劣っている	劣っている
		2 施工計画書が工事着手前又は施工方を反映したものとなっていることが	版内容と現場施工方法が一致していることが確認できた場合(工期や数量等の軽微な変更は除く)は、その管していることが確認できる。 を行っていることが確認できる。を行っていることが確認できる。を行った内容で適確に整備していることが確認できる。 を書画で実施していることが確認できる。 いることが確認できる。 エ種毎に明確であり、その内容に基づき管理していることが確認できる。 「理毎に明確であり、その内容に基づき管理している」とが検査が実施できた。 「即価対象項目が当該工事において評価の対象と問題を対象である。」では、対象欄に「レ」印のある項目としている。 「レ」印を記入した項目について該当する場合では、 「おり、評価は(一分)=該当の項目としている。 「おり、評価は(一分)=該当の項目以下の場合には、 「おり、また、文書による改善指示を行った場合には、	れているとともに、設計図書の内容及び現場条件 きる。 の都度当該工事着手前に変更計画書を提出してい きる。 ることが確認できる。なお、社内管理基準値が市 となる場合には「対象」欄の口に「レ」印を により、欄の口に「レ」のを記入する。 に例計算の値で評価する。 呼価対象項目数 () に評価とする。	□ 施工管理について、監督 員が文書による改善指示 を行った。	□ 施工管理について、監督 員からの文書による改善 指示に従わなかった。

(検査員) 考查項目 3. 出来形及び出来映 出来形の測定が、必要な測 出来形の測定が、必要な 出来形の測定が、必要な 出来形の測定が、必要な 出来形の測定が、必要な 出来形の測定方法又は測 出来形の測定方法又は測 定項目について所定の測定 基準に基づき行われてお 測定項目について所定の 測定項目について所定の 測定項目について所定の 測定項目について所定の 定値が不適切であったた 定値が不適切であったた め、検査員が修補指示を 測定基準に基づき行われ 測定基準に基づき行われ 測定基準に基づき行われ 測定基準に基づき行われ め、監督員が文書で指示 I. 出来形-① り、測定値が規格値を満足 ており、測定値が規格値 ており、測定値が規格値 ており、測定値が規格値 ており、測定値が規格値 を行い改善された。 行った。 し、そのばらつきが規格値 を満足し、そのばらつき を満足し、そのばらつき を満足し、そのばらつき を満足し、a~b'に該 の概ね50%以内で、下記 が規格値の概ね50%以 が規格値の概ね80%以 が規格値の概ね80%以 当しない。 内で、下記の「評定対象 内で、下記の「評定対象 内で、下記の「評定対象 の「評定対象項目」の4項 項目 の3項目以上が該 項目」の2項目以上が該 目以上が該当する。 項目」の3項目以上が該 当する。 当する。 当する。 ●該当する項目の□に「レ」印を記入する。 1 全般にわたり、測定値が規格値を満足している。 2 自社の管理基準を設定し、適切に管理している。(管理基準値又は規格値の80%より上位) 3 出来形管理図及び出来形管理表が適切にまとめられており、適正である。 ① 出来形は、工事全般を通じて評定するものとする。 4 写真管理基準の管理項目を満足している。 出来形とは、設計図書に示された工事目的物の形状及び寸法をいう。 15 出来形測定において、不可視部分の出来形が写真で的確に判断できる。 ③ 出来形管理とは、「土木工事施工管理基準」の測定項目、測定基準及び規格値に 6 その他(基づき所定の出来形を確保する管理体系である。 ④ 試験結果の打点数等が少なく(原則3点未満)ばらつきの判断ができない工事は 理由 「c」評価とする。 ⑤ なお、文書による改善指示を行った場合には、上記評価によらず d、 e 評価とする。 ※ ばらつきの判断は別紙-4参照。 該当項目数 0

別紙3-2-2

考查項目別運用表

考査項目	а	a'	b	b'	С	d	е
3. 出来形及び出来映	6項目以上	5項目	4 項目	3項目	□ 出来形の測定が、必要な	□ 出来形の測定方法又は測	□ 出来形の測定方法又は測
え					別定項目について所定の 測定基準に基づき行われ	定値が不適切であったた め、監督員が文書で指示	定値が不適切であったため、検査員が修補指示を
	対象判定				ており、測定値が規格値	を行い改善された。	行った。
I. 出来形-②		定値が規格値を満足している。 			を満足し、a~b'に該 当しない。		
			理基準値又は規格値の80%より	上位)			
		出来形管理表が適切にまとめられて	ており、適正である。				
		里項目を満足している。 て、不可視部分の出来形が写真で的	りな に 割断				
		こ、不可税部分の出来形が与其で P握し、施工計画書に適切にまとる					
			いられている。 監督員と協議のうえで管理している	ることが確認できる。			
		20,54000 00 = 12,400 00 1		y = C // REDUCE U 0			
	●判断基準						
	該当項目が6個以上・・・・・						
	該当項目が5個・・・・・・	=					
	該当項目が4個・・・・・・ 該当項目が3個・・・・・・	=					
	該当項目なし、・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・						
	該当項目なじ ・・・・・・・	C					
	該当項目数 0						

	考査項目	а	a'	b	b'	С	d	е
	3. 出来形及び出来映	6項目以上	5 項目	4項目	3項目	□ 出来形の測定が、必要な	□ 出来形の測定方法又は測 定値が不適切であったた	□ 出来形の測定方法又は測 定値が不適切であったた
7						測定項目について所定の 測定基準に基づき行われ	を値が不適切であっただめ、監督員が文書で指示	定値が不適切であったに め、検査員が修補指示を
l		対象 判定				ており、測定値が規格値	を行い改善された。	行った。
]]	I. 出来形一③				きる。(原則、全ての工事を対象)	· 〉 を満足し、a~b'に該 」 当しない。		
				であり、出来形の確認ができる。				
				形の確認ができる。(原則、全ての て、監督員と協議の上で管理して				
			れていない出来が官珪墳日につい 形を写真で確認できる。	C、監督員 C 励識の上で管理して	いることが推認できる。			
				きる。(管理基準値または規格値)) の80%より上位、原則、全ての工事	l ≨を対象)		
		□ □ 7 バルブ及び配管オ:	フセット等が適切であることが確	忍できる。				
		●判断基準						
		●判断基準 該当項目が6個以上・・・・・						
		該当項目が5個・・・・・・						
		該当項目が4個・・・・・・						
l		該当項目が3個・・・・・・	• • b'					
		該当項目なし ・・・・・・	· · c					
		該当項目数 0						
		該当項目数 0						

(検査員)

考査項目	細別	а	a'	b	b'	С	d	е
び出来映 え	コンクリート 構造物工事	記入し、評価の対象となら ② 「レ」印を記入した項目に ③ 対象欄に「レ」印のある該 評価値(%) = 該当 ⑤ なお、評価対象項目数が ⑥ また、文書による改善指示	おいて評価の対象となる場合にない場合は空欄とする。 ついて該当する場合は「判定」 目数を分母として比例計算の値 頃項目以下の場合は に評価対象項を を行った場合には、上記評価に	欄の口に「レ」印を記入する。 で評価する。 数 ()			□ 品質関係の測定方法又は測定 値が不適切であったため、監 督員が文書で指示を行い改善 された。	□ 品質関係の測定方法又は測定 値が不適切であったため、検 査員が修補指示を行った。
Ⅱ. 品質			確認できる。 入れ時に必要な試験を実施して、 用したコンクリート供試体が、 件に遠した運搬時間、打設時の 寒縮強度を管理し、必要な強度に 設前に、打継ぎ目処理を適切に 明書類で確認できる。 まで、設計図書の仕様を満足し、、作業員の技量確別を表してい 生が、設計図書の仕様を満足し、ない個数が、設計図書の仕様を満足し 及び個数が、設計図書の仕様を	おり、温度、スランプ、空気量 当該現場の供試体であることか 役入高さ及び締固め方法が、定 合む) 達した後に型枠及び支保工の取 行っていることが確認できる。 が鉄筋に付着しないよう管理して ていることが確認できる。 ることが確認できる。 、これでよる。 、これで認定できる。 、これで認定されていることが確認できる。	が確認できる。 められた条件を満足しているこ なり外しを行っていることが確認 にいることが確認できる。	<u>ځ</u>	●判断基準 ・該当項目が90%以上・・・・ ・該当項目が80%以上90%未減 ・該当項目が70%以上80%未減 ・該当項目が60%以上70%未減 ・該当項目が60%以上70%未減 ・該当項目が60%以上第 ・ ※評価対象項目数が2項目以T	ที่ · · · · · a ' ที่ · · · · · b ที่ · · · · · b ' · · · · · c

別紙3-4-1

考査項目別運用表

					(KER)
考査項目	工種	а	b	С	d
		優れている	やや優れている	他の評価に該当しない	劣っている
3. 出来形及 び出来映 え エ. 出来映え	コンクリート構造物工事 砂防構造物工事 トンネルエ事	●該当する項目の□に「レ」印を記入する。 □ 1 コンクリート構造物の表面状態が良い。 □ 2 コンクリート構造物の通りが良い。 □ 3 天端仕上げ、端部仕上げ等が良い。 □ 4 クラックが無い。 □ 5 漏水が無い。 □ 6 全体的な美観が良い。		●判断基準 該当5項目以上・・・a 該当4項目・・・・ b 該当3項目・・・・ c 該当2項目以下・・・ d	

(検査員)

考査項目	細別	а	a'	b	b'	С	d	е
3. 出来形及 び出来映 え		記入し、評価の対象となど ② 「レ」印を記入した項目に ③ 対象欄に「レ」印のある項 ④ 評価値 (%) =該当 ⑤ なお、評価対象項目数が2	こついて該当する場合は「判定」 夏目数を分母として比例計算の	欄の口に「レ」印を記入する 直で評価する。 目数 () る。			□ 品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、監督員が文書で指示を行い改善された。	□ 品質関係の測定方法又は測定 値が不適切であったため、検 査員が修補指示を行った。
Ⅱ. 品質		2 段切りを設計図書 3 置換えのための振 4 締固めが設計図書 5 一層あたりのまき 6 芝付け及び種子吹 7 構造物周辺の締節 8 土羽土の土質が認 9 CBR試験などの 10 法面に有害な亀裂	計図書に定められた条件を満り	をできる。 を乱さないように施工しているいることが確認できる。 食認できる。 中で行っていることが確認でき は認できる。 けいることが確認でき を認できる。 こいることが確認できる。 としていることが確認できる。	うことが確認できる。 る。	C評価とする	●判断基準 ・該当項目が90%以上・・・・ ・該当項目が80%以上90%未済 ・該当項目が70%以上80%未済 ・該当項目が60%以上70%未済 ・該当項目が60%未満・・・・	請・・・・・a' 請・・・・ b 請・・・・ b'

別紙3-4-2

考査項目別運用表

					(1)(1)(1)
考査項目	エ 種	а	b	С	d
		優れている	やや優れている	他の評価に該当しない	劣っている
3. 出来形及 び出来映 え 加. 出来映え		優れている ●該当する項目の□に「レ」印を記入する。 1 仕上げが良い。 2 通りが良い。 3 天端及び端部の仕上げが良い。 4 構造物へのすりつけなどが良い。 5 全体的な美観が良い。	やや優れている	他の評価に該当しない ●判断基準 該当4項目以上・・・ a 該当3項目・・・・ b 該当2項目・・・・ c 該当1項目以下・・・ d	劣っている

(検査員)

考査項目	細別	а	a '	b	b'	С	d	е
3. 出来形及 び出来映 え	造成工事(区 画整理)	記入し、評価の対象とが ② 「レ」印を記入した項目 ③ 対象欄に「レ」印のある ④ 評価値 %。) = 1 ⑤ なお、評価対象項目数が	ならない場合は空欄とする。 目について該当する場合は「判 る項目数を分母として比例計算 該当項目数() /評価対象 が2項目以下の場合はc評価と	項目数()			□ 品質関係の測定方法又は測定 値が不適切であったため、監 督員が文書で指示を行い改善 された。	□ 品質関係の測定方法又は測定 値が不適切であったため、検 査員が修補指示を行った。
II. 品質		2 掘削により発生	により発生した伐開木、根株、枝 した産業廃棄物等が適切に処理 き出し厚を管理していることが確 急裂が無い。	されている。				
			にあたり、砕石等の混入がないこ 設計図書等に基づき施工されて	とが確認できる。 おり、仕上がりについては基準値	を余裕もって満足している。		●判断基準 ・該当項目が90%以上・・・ ・該当項目が80%以上90%未減 ・該当項目が70%以上80%未減 ・該当項目が60%以上70%未減 ・該当項目が60%未満・・・	高・・・・・a'高・・・・b'
		その他 (理由 評価値 0% =	該当項目数 0 /評価	対象項目数 0 評価分	対象項目数が2項目以下なので	C評価とする		

別紙3-4-3

考査項目別運用表

						()/12//
考査項目	・ ・査項目 エ 種		а	b	С	d
		1里	優れている	やや優れている	他の評価に該当しない	劣っている
3. 出来形及						
び出来映え	造成工事	(区画	●該当する項目の□に「レ」印を記入する。		●判断基準	
1 ~	整理)		1 切盛の勾配が確保され、法面の仕上げが良い。			
皿. 出来映え			2 整地、均平の仕上げが良い。		該当3項目・・・・b	
			3 天端及び端部の仕上げが良い。		該当2項目・・・・・c	
			4 構造物へのすりつけが良い。		該当1項目・・・・・d	
			5 全体的な美観が良い。			
			I .			

								(検査員)
考査項目	細別	а	a'	b	b'	С	d	е
3. 出来形及 び出来映 え	舗装工事	記入し、評価の対象とな ② 「レ」印を記入した項目 ③ 対象欄に「レ」印のある ④ 評価値(%)=該 ⑤ なお、評価対象項目数が	において評価の対象となる場合 らない場合は空欄とする。 について該当する場合は「判定 項目数を分母として比例計算の 当項目数() /評価対象項 2項目以下の場合は。評価とす 示を行った場合には、上記評価		■ 品質関係の測定方法又は測定 値が不適切であったため、監 替員が文書で指示を行い改善 された。	┃ 値が不適切であったため、ホ		
II. 品質		2 路床及び路盤工の 3 路床及び路盤工の 4 路壁の施工の 4 路壁の施工の 5 路床を上において 7 路床座上において 8 その他 1 日本 1 日本	1、一層の仕上がり厚を200 1、構造物の隣接箇所や狭い箇 由: 該当項目数 0 戸師 該当項目数 0 戸師 お物の品質が、配合設計及び試 5たって、上層路盤面の浮きおいした、 では、設計図書に定められた条件をあられたの。 はで、設計図書に定めら合面へことは はで、設計図書にといることとは はで、設計図書にといることとは はで、設計の位置を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を	いることが確認できる。 を満足していることが確認でできる。 を満足していることが確認でできる。 ていることが確審物歴を除去してが にかける経動を除ごとは、特別の 所における縁間めが、タンパ 対象項目数 0 評価 を終続りの有言物でがある。 で、アスとがある別型書のでしていることが確認できる。 対象項目数 0 評価 が確認できる。 とが確認できる。 とが確認できる。 とが確認できる。 とが確認できる。 とが確認できる。	きる。 から施工していることが確認で かて施工していることが確認で 等の小型締固め機械により施工 対象項目数が2項目以下なので 彼の証明書類により確認できる。 さとが確認できる。 第足していることが確認できる。 大が確認できる。 とが確認できる。 とが確認できる。 大が確認できる。 大が確認できる。 、最大骨材粒径、 にしていることが確認できる。 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	きる。していることが確認できる。 していることが確認できる。 ・ 認できる。 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	●判断基準 ・該当項目が90%以上90%未減 ・該当項目が60%以上90%未減 ・該当項目が70%以上70%未減 ・該当項目が60%よ ・該当項目が60%未減 ・該当項目が60%未減 ・※評価対象項目数が 2項目以下	箇・・・・・a' 萵・・・・・b 茴・・・・・b' ・・・・・・c

別紙3-4-4

考査項目別運用表

					(模査員)			
考査項目	工種	а	b	С	d			
与直项日	工性	優れている	やや優れている	他の評価に該当しない	劣っている			
3. 出来形及		●該当する項目の□に「レ」印を記入する。	●判断基準					
び出来映え		□ 1 舗装の平坦性が良い。		該当5項目以上・・・a				
1 ~		□ 2 構造物の通りが良い。	該当4項目・・・・b					
Ⅲ. 出来映え		□ 3 端部処理が良い。		該当3項目・・・・・c				
		□ 4 構造物へのすりつけ等が良い。		該当2項目以下・・・d				
		□ 5 雨水処理が良い。						
		□ 6 全体的な美観が良い。						

(検査員)

考査項目	細別	а	a'	b	b'	С	d	e
3. 出来形及 び出来映 え	切削工事	記入し、評価の対象とな ② 「レ」印を記入した項目 ③ 対象欄に「レ」印のある ④ 評価値 (%)=記 ⑤ なお、評価対象項目数が	らない場合は空欄とする。	頁目数 () する。			品質関係の測定方法又は測定 値が不適切であったため、監 軽員が文書で指示を行い改善 された。	
II. 品質		混合物の事前審査	制度の適用工事は除く) がプラント出荷時、現地到着時、 用する必要のある現場で、交通開 昆合物の運搬方法、舗設作業(新 仕上げられている。 定処理層、基層または表層とセッ らしている。 を補強するために、繊維質補強する。	舗設時等で整理・記録している。 放を適切に行っている。 防あの配慮が行われている。 メント及び石灰安定処理層の縦断 対(クラック防止シート)を使用した	の規格が確認できる。(アスファル) 日の位置を15cm以上、横断目の場合、縦横断目のラップ長を10cm以上、横断目のラップ長を10cm以上を対象項目数が2項目以下なので	D ~	●判断基準 ・該当項目が90%以上・・・・ ・該当項目が80%以上90%未減 ・該当項目が70%以上80%未減 ・該当項目が60%以上70%未減 ・該当項目が60%未満・・・・	請・・・・・a' 高・・・・ b 高・・・・ b'

別紙3-4-5

考査項目別運用表

		а	b	C	d			
考査項目	工種	優れている	やや優れている	他の評価に該当しない	劣っている			
3. 出来形及 び出来映 え				1				
り出来映	切削工事	●該当する項目の□に「レ」印を記入する。		●判断基準				
'-		1 舗装の平坦性が良い。		該当5項目以上・・・a				
Ⅲ. 出来映え		2 構造物の通りが良い。		該当4項目・・・・b				
		3 雨水処理が良い。		該当3項目・・・・c				
		4 構造物等へのすりつけが良い。		該当2項目以下・・・d				
		5 土工の仕上げが良い。						
		6 全体的な美観が良い。						

(検査員)

考査項目	細別	а	a'	b	b'	С	d	е
3. 出来形及 び出来映 え	維持修繕工事 (舗装+構造物等)	記入し、評価の対象とな ② 「レ」印を記入した項目 ③ 対象欄に「レ」印のある ④ 評価値(%)=該 ⑤ なお、評価対象項目数が	らない場合は空欄とする。	[目数 () ⁻ る。			A質関係の測定方法又は測定 値が不適切であったため、監 督員が文書で指示を行い改善 された。	■ 品質関係の測定方法又は測定 ■ 値が不適切であったため、検 査員が修補指示を行った。
Ⅱ. 品質		対象 判定 1 設計図書に基づ 制度の適用工事		練りが行われており、適切な混合	物の規格が確認できる。(アスフ	アルト混合物の事前審査		
		2 舗設後、直ちに 3 気象条件に適し 4 寸法誤差が少な 5 二次製品の吊り 6 仕様書等で定め 7 材料の品質規則 8 JIS規格外品に 9 混合物の温度管 10 コンクリート打設 11 コンクリート供設 11 コンクリート供設 12 その他 理	供用する必要のある現場で、交通 た混合物の運搬方法、舗設作業 べ、表面状況のよい製品が使用: 込み、据付の際に常に十分な注 いられている品質管理が実施され 記証明書が整備されている。 ついて、仕様書で規定する規格、 理がプラント出荷時、現地到着に 時の必要な供試体を採取し、強 は体が当該現場の供試体であるこ	(締固め等)の配慮が行われていされていることが確認できる。 意を払っていることが確認できる。 意を払っていることが確認できる。 ている。 品質を満足している。 時、舗設時等で整理・記録している 度・スランプ・空気量等が確認でき とが確認できる。	5.		●判断基準 ・該当項目が90%以上・・・・ ・該当項目が80%以上90%未減 ・該当項目が70%以上80%未減 ・該当項目が60%以上70%未減 ・該当項目が60%未満・・・・	情・・・・・a' 情・・・・・b 情・・・・・b'

別紙3-4-6

考査項目別運用表

					· interest				
考査項目	工種	а	b	С	d				
7 且 次 口	<u> </u>	優れている	やや優れている 他の評価に該当しない		劣っている				
3. 出来形及				•					
び出来映	維持修繕工事	●該当する項目の□に「レ」印を記入する。		●判断基準	断基準				
	(1 舗装の平坦性が良い。	該当5項目以上・・・a						
皿. 出来映え	等)	2 構造物の通りが良い。	該当 4 項目・・・・ b						
		3 雨水処理が良い。		該当3項目・・・・・c					
		4 構造物等へのすりつけが良い。		該当2項目以下・・・d					
		5 土工の仕上げが良い。							
		6 全体的な美観が良い。							

(検査員) 考查項目 細別 b С 品質関係の測定方法又は測定 3. 出来形及 基礎工事及び 品質関係の測定方法又は測定 ① 評価対象項目が当該工事において評価の対象となる場合には「対象」欄の口に「レ」印を び出来映地盤改良工事 値が不適切であったため、検 値が不適切であったため、監 記入し、東部の対象とならない場合は空欄とする。 「レ」印を記入した項目について該当する場合は「判定」欄の口に「レ」印を記入する。 督員が文書で指示を行い改善 査員が修補指示を行った。 された。 ③ 対象欄に「レ」印のある項目数を分母として比例計算の値で評価する。 %)=該当項目数()/評価対象項目数() ⑤ なお、評価対象項目数が2項目以下の場合は c 評価とする。 | ⑥ また、文書による改善指示を行った場合には、上記評価によらず d、 e 評価とする。 Ⅱ. 品質 【杭関係(コンクリート・鋼管・鋼管井筒、場所打、深礎等)】 ■ 杭に損傷及び補修痕が無いことが確認できる。 ▶ 既製杭の打止め管理の方法及び場所打杭の施工管理の方法が整備されており、その記録を整理していることが確認できる。 B 杭頭処理において、杭本体を損傷していないことが確認できる。 ★水平度、鉛直度等が、設計図書を満足していることが確認できる。 ▶ 溶接の品質管理に関して、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。 b 支持地盤に達していることが、掘削深さ、掘削土砂等により確認できる。 7場所打杭について、トレミー管をコンクリート内に2m以上挿入して施工していることが確認できる。 → 掘削深度、排出土砂、孔内水位の変動及び安定液を用いる場合の孔内の安定液濃度並びに比重等が、設計図書を満足していることが確 認できる。) 配筋、スペーサーの配置及びコンクリート打設等が、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。 り ライナープレートの組み立てにあたり、偏心と歪みに配慮して施工していることが確認できる。 裏込材注入の圧力などが施工記録により確認できる。 □ 12 強度確認、セメントミルクの比重管理などの品質に係わる事項の管理資料を整理していることが確認できる。 ●判断基準 │ │ │ B その他 該当項目が90%以上・・・・・・a ・該当項目が80%以上90%未満・・・・a ・該当項目が70%以上80%未満・・・・b 0% = 該当項目数 0 /評価対象項目数 0 評価値 評価対象項目数が2項目以下なのでC評価とする ·該当項目が60%以上70%未満・・・・b' 【地盤改良関係】 ・該当項目が60%未満・・・・・c ■ 改良材のバッチ管理記録が整理され、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。 セメントミルクの比重、スラリー噴出量、強度等の管理資料を整理していることが確認できる。 8 事前に土質試験を実施し、改良材の選定、必要添加量の設定等を行っていることが確認できる。 ▮ 施工箇所が均一に改良されているとともに、十分な強度及び支持力を確保していることが確認できる。 5 その他

別紙3-4-7

評価値

評価値

0% = 該当項目数 0 /評価対象項目数 0

0% = 該当項目数 0 /評価対象項目数 0

考查項目別運用表

検査員)

					(検査員)		
考査項目	工種	а	b	С	d		
与 互項日	上 俚	優れている	やや優れている	他の評価に該当しない	劣っている		
3. 出来形及							
び出来映	基礎工事及び地盤	●該当する項目の□に「レ」印を記入する。		●判断基準			
^	改良工事	1 土工関係の仕上げが良い。		該当3項目以上・・・a			
Ⅲ. 出来映え		2 通りが良い。		該当2項目・・・・b			
		3 端部及び天端の仕上げが良い。		該当1項目・・・・c			
		4 施工管理記録などから不可視部分の出来ばえ	の良さが伺える。	該当O項目・・・・d			
		※ 地盤改良において、出来ばえが判断できない場合	合については c 評価とする。				

評価対象項目数が2項目以下なのでC評価とする

(検査員)

3 出来を設	考査項目	細別	а	a'	b	b'	С	d	е
「現場対象域係 日本	び出来映	(RC床版工 事はコンク リート構造物	記入し、評価の対象となっ ② 「レ」印を記入した項目! ③ 対象欄に「レ」印のある引 ④ 評価値(%)=該 ⑤ なお、評価対象項目数が	らない場合は空欄とする。 について該当する場合は「判定」 項目数を分母として比例計算の値 当項目数 () /評価対象項[2項目以下の場合はc評価とする	欄の口に「レ」印を記入する。 直で評価する。 目数 () 5。			値が不適切であったため、監督員が文書で指示を行い改善	値が不適切であったため、検
製料の経例、品質を証明する書類又は現物により場合していることが確認できる。 2 溶粉件業にあたり、保養内収養健康を行っていることが確認できる。 3 溶接作業にあたり、溶接材料の使用区分が設計図書の仕様を満足していることが確認できる。 4 溶液拡工体系も加工が開発を提出していることが確認できる。 5 元を过いよって生したまった れが削り取られているだと、砂糖をできる。 5 元を过いよって生したまった れが削り取られているだと、砂糖をできる。 8 素地調整を行う場合、第 1種ケン少後 4等間以内・金属物料理激を実施していることが確認できる。 9 整料の高度が出物証可能、	Ⅱ. 品質		対象 判定						
理由: 評価値			1 鋼材の種別、品質 2 溶接作業にあたり 3 溶接作業にあたり 4 溶接施工に係る施 5 孔空けによって生 6 欠略部の発生あたり 7 空業作業にあたり 8 素地調整を行うは 9 空料の空缶管理に 0 空料の品質が出荷	、作業員の技量確認を行ってい リ、溶接材料の使用区分が設計区 E工計画書を提出していることが Eじたまくれが削り取られている Bられないことが確認できる。 リ、塗布面を十分に乾燥させて施 場合、第1種ケレン後4時間以内 こついて、写真等で確実に空であ					
(学校関係)	ı			:					
評価値 0% = 該当項目数 0 /評価対象項目数 0 評価値 0% = 該当項目数 0 /評価対象項目数 0			評価値 0% = [架設関係]	を 該当項目数 0 /評価 の	ることが確認できる。 ンを実施していることが確認で て行っていることが確認できる。 仕上げ面に水切勾配がついてい していることが確認できる。 、性能が確保できる規模及び強力 いることが確認できる。	ることが確認できる。	確	- 該当項目が90%以上 - 該当項目が80%以上90%未海 - 該当項目が70%以上80%未海 - 該当項目が60%以上70%未海 - 該当項目が60%未満	ja' jb jb'
評価値 0% = 該当項目数 0 /評価対象項目数 0			理由	:		J			
						象項目数が2項目以下なのでの	C評価とする		
	DUST O A O		評価値 0% =	= 該当項目数 0 /評価	对象項目数 0				

考査項目別運用表

考査項目	エ 種	а	b	С	d			
7 旦 項 口	_ <u>_ 1</u>	優れている	やや優れている 他の評価に該当しない		劣っている			
3. 出来形及								
び出来映え	鋼橋工事	:当する項目の口に「レ」印を記入する。 ●判断基準 1 表面に補修箇所が無い。						
皿. 出来映え		2 部材表面に傷及び錆が無い。 該当3項目・・・・ b 3 溶接に均一性がある。 該当2項目・・・・ c 4 塗装に均一性がある。 該当1項目以下・・・ d						
		5 全体的な美観が良い。						

(検査員)

考査項目	細別	а	a'	b	b'	С	d	е
	コンクリート 橋 上部工事 (P C 及 ぴ R C を対象)	記入し、評価の対象とな。 ② 「レ」印を記入した項目1 ③ 対象欄に「レ」印のある3 ④ 評価値(%) = 該 ⑤ なお、評価対象項目数が	・ こおいて評価の対象となる場合に らない場合は空欄とする。 こついて該当する場合は「判定」 自当数を分母として比例計算の 当項目数() /評価と 2項目以下の場合は c 評価とする たを行った場合には、上記評価!	欄の口に「レ」印を記入する。 直で評価する。 引数 () 5。			品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、監督員が文書で指示を行い改善された。	■ 品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、検査員が修補指示を行った。
II. 品質			入れ時に必要な試験を実施して 用したコンクリートの供試体が 件に適した連搬時間、打設時の批 が力力と管理として、必要な強度 明び曲は一、を管理をできる。 が出ますでは が、設計のは一、のでは が、設計のといるでは が、設計のといるでは が、設計のといるでは が、設計のといるでは が、設計のといるでは が、設計のといるでは が、設計のといるでは が、設計のといるでは が、のでは が、のでは が、のでは が、のでは が、のでででは が、のでででは が、のでででは が、のでででは が、のでででは が、のでででは が、のでででは が、のでででは が、のででででは が、のでででは が、のでででででででできます。 が、のでででででででできます。 が、のででででででででできます。 が、のででででででできます。 が、のででででででできます。 が、のでででででででででいる が、のででででででででできます。 が、のででででででできます。 が、のでででででででできます。 が、のでででででできます。 が、のででででできます。 が、のででででででできます。 が、のでででででできます。 が、のでででででできます。 が、のでででででできます。 が、のででででででできます。 が、のででででででできます。 が、のでででででででででできます。 が、のででででででできます。 が、のでででででででででででできます。 が、のででででででででできます。 が、のでででででででででででででででででででででででででででででででででででで	おり、温度、スランプ、空気量、当該現場の供試体であること 込入高さ及び締固め方法が、定め に達した後に型枠及び支保工の 書の仕様を満足していることが 鉄筋にとが確といよう管理して ることが確認できる。 ていることが確認できる。 ていることが確認できる。 れた条件を満足していることが 書の仕様を満足していることが 前に実施していることが確認で 図書の仕様を満足していとがのること、 設計図書の仕様を満足していること、 養生条件におかれた供試体を用	等の測定結果が確認できる。 が確認できる。 かられた条件を満足していることが確 取り外しを行っていることが確 確認できる。 いることが確認できる。 確認できる。 きる。 が確認できる。 ることが確認できる。	とが確認できる。	●判断基準 ・該当項目が90%以上・・・・ ・該当項目が80%以上90%未減 ・該当項目が70%以上80%未減 ・該当項目が60%以上70%未満 ・該当項目が60%以高、 ・該当項目が80%未満・ ※評価対象項目数が2項目以下	i · · · · · a' i · · · · · b i · · · · · b' · · · · · c
Dilár a O A							l .	

別紙3-4-9

考査項目別運用表

					(快宜貝)
考査項目	エ 種	а	b	С	d
万里坝日	上 悝	優れている	やや優れている	他の評価に該当しない	劣っている
3. 出来形及					
び出来映	コンクリート橋上	●該当する項目の□に「レ」印を記入する。		●判断基準	
'`	- - - - - - - - - -	1 コンクリート構造物の表面状能が良い		該当5項目以上・・・a	
Ⅲ. 出来映え	(PC及びRCを 対象)	2 コンクリート構造物の通りが良い。		該当4項目・・・・b	
	A) 3A /	3 天端及び端部の仕上げが良い。		該当3項目・・・・・c	
		4 支承部の仕上げが良い。		該当2項目以下・・・d	
		5 クラックが無い。			
		6 全体的な美観が良い。			

別紙3-3-10

考査項目別運用表

(検査員) 考查項目 細別 品質関係の測定方法又は測 定値が不適切であったた め、監督員が文書で指示を 行い改善された。 品質関係の測定方法又は測 定値が不適切であったた め、検査員が修補指示を 行った。 出来形及び出来映 橋梁下部工事 評価対象項目が当該工事において評価の対象となる場合には「対象」欄の口に「レ」印を (1) 評価対象項目が当該工事において評価の対象となる場合には「対象、棚の口に「レ」印を記入した項目について該当する場合は、判定、欄の口に「レ」印を記入した項目について該当する場合は、判定、欄の口に「レ」印ある可観を分母として例計算の値で評価する。
(4) 評価値(9) =該当項目数() /評価対象項目数()
(5) なお、評価対象項目数が 2項目以下の場合は、評価とする。
(6) また、欠番による改善指示を行った場合には、上記評価によらずは、 e評価とする。 対象 判定 Ⅱ 品質 【杭関係 (コンクリート・鋼管・鋼管井筒・場所打・深礎等)】 □ □ 1 杭に損傷及び補修痕が無いことが確認できる。 □ □ 2 規制杭の打止め管理の方法及び場所打杭の施工・ □ 2 規制杭の打止め管理の方法及び場所打杭の施工管理の方法が整備されており、その記録を整理していることが確認できる。 □ 3 杭頭処理において、杭本体を損傷していないことが確認できる。 □ □ 3 杭頭処理において、杭木体を掲備していないことが地窓できる。
□ □ 4 水平度、約直度等が、設計図書を満足していることが確認できる。
□ □ 5 溶接の点質管理に関して、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。
□ □ 6 支持地盤に達していることが、掘削深る、掘削法が等により確認できる。
□ □ 7 場所打杭について、トレミー管をコンクリート内に2m以上挿入して施工していることが確認できる。
□ □ 8 掘削深度、排出土砂、孔内水位の変動及び安定液を用いる場合の孔内の安定液濃度並びに比重等が、設計図書を満足していることが確認できる。 □ 9 配筋、スペーサーの配置及びコンクリート打設等が、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。
□ 10 ライナーブレートの組み立てにあたり、偏心と歪みに配慮して施工していることが確認できる。 □ 11 裏込材注入の圧力などが施工記録により確認できる。 【躯体(鉄筋コンクリート)】 □ □ 14 コンクリートの配合試験及び試験練りを行っており、コンクリートの品質(強度・w/c、最大骨材粒径、塩化物総量、単位水量、 アルカリ骨材反応抑制等)が確認できる。 □ 15 コンクリート受け入れ時に必要な試験を実施しており、温度、スランプ、空気量等の測定結果が確認できる。 □ □ 16 圧縮強度試験に使用したコンクリート供試体が、当該現場の供試体であることが確認できる。 □ □ 17 施工条件や気象条件に適した運搬時間、打設時の投入高さ及び締固め方法が、定められた条件を満足していることが確認できる。 (素中及び碁中ンクリート等を含む) | □ | 18 コンクリートの圧縮強度を管理し、必要な強度に達した後に型特及び支保工の取り外しを行っていることが確認できる。
| □ | 19 コンクリートの打設前に、打継ぎ目処理を適切に行っていることが確認できる。
| □ | 20 鉄筋の品質が、証明書類で確認できる。 ●判断基準 ・該当項目が90%以上・・・・・ a ・該当項目が80%以上90%未満・・・・ a' 該当項目が70%以上80%未満・・・・b □ □ 21 コンクリート打設までにさび、どろ、油等の有害物が鉄筋に付着しないよう管理していることが確認できる。 該当項日が60%以上70%未満・・・・ト □ □ 25 スペーサーの品質及び個数が、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。 □ □ 26 有害なクラックが無い。 □ □ 27 その他 (理由: 評価値 0% = 該当項目数 0 /評価対象項目数 0

SII新 3 一(4)-10

考查項目別運用表

					(快旦貝/			
考查項目	工種	a	b	С	d			
7540	- 12	優れている	やや優れている	他の評価に該当しない	劣っている			
3. 出来形及	橋梁下部工事	●該当する項目の□に「レ」印を記入する。		●判断基準				
び出来映		□ 1 施工管理記録などから不可視部分の出来ばえ	の良さが伺える。	該当5項目以上・・・a				
, ,		□ 2 通りが良い。		該当4項目・・・・b				
Ⅲ. 出来映え		□ 3 端部及び天端の仕上げが良い。		該当3項目・・・・・c				
		□ 4 構造物の表面状態が良い。		該当 2 項目以下・・・d				
		5 パラペットを含め本体にクラックや損傷が無い(補修痕が無い)。						
		□ 6 全体的な美観が良い。						

(桳杏昌)

考査項目	細別	а	a'	b	b'	С	d	е
び出来映 え	繕補強、落橋防止 等)	■ 構造物の劣化状況をよく ■ 監督員の指示事項に対し ■ 施工後のメンテナンスに ■ 理由: ■ 理由: ■ 理由: ■ 理由: ■ 理由: ■ 理由: ■ 地方・項目以上・・ ■ 該当項目がら項目・・・ ■ 該当項目が3項目・・・ ■ 該当項目が3項目以下・・	 状等が適切であり、かつ現場(把握して、適切な対策を施して、現地状況を勘案し、施工に対する提言や修繕サイクル等) ・・・・a゚・・・・b゚・・・・・c 評価対象項目とし、この他に適 	ていることが確認できる。 方法や構造についての提案を行 を勘案した提案等を行っている				

別紙3-4-11

考查項目別運用表

(検査員) b d 考査項目 エ 種 優れている やや優れている 他の評価に該当しない 劣っている 3. 出来形及 橋梁維持・修繕 び出来映 工事 ●該当する項目の□に「レ」印を記入する。 ●判断基準 | 小構造物等にも注意が払われている。 該当3項目以上・・・a え (橋脚補強、耐震補強、落橋防皿、出来映え 止等) 2 きめ細かな施工がなされている。 該当2項目・・・・b 3 既設構造物とのすりつけが良い。 該当1項目・・・・c 4 全体的な美観が良い。 該当O項目・・・・d

(検査員)

考査項目	細別	а	a'	b	b'	С	d	е
3. 出来形及 び出来映 え	橋梁補強工事 (落橋防止工 事を含む)	記入し、評価の対象とな ② 「レ」印を記入した項目 ③ 対象欄に「レ」印のある ④ 評価値(%)=該 ⑤ なお、評価対象項目数が	において評価の対象となる場合 らない場合は空欄とする。 について該当する場合は「判定 項目数を分母として比例計算の 当項目数()/評価対象項 2項目以下の場合はで評価とす 示を行った場合には、上記評価	・ 欄の口に「レ」印を記入する値で評価する。 直数() ・る。			品質関係の測定方法又は測定 値が不適切であったため、監 質が文書で指示を行い改善 された。	品質関係の測定方法又は測定 値が不適切であったため、検 査員が修補指示を行った。
11. 品質		2 仕様書等で定め 3 材料の品質規料 4 工場塗装の塗装 5 当て傷等の塗装 6 現場塗装の塗装 7 現場溶接の管理 8 溶接継手の試験 9 接合ボルトの締 10 コンクリート面の 11 コンクリート削子 12 アンカー削孔時 13 アンカーの引張 14 注入材料の品質 15 その他	いての資料・工事記録写真が整理 られている品質管理が測定項目 各証明書が整備されている。 表記録が整理されており、湿度・登 を欠陥は補修されている。 表記録が整理されており、湿度・登 を対けがを理されており、湿度・登 を対けが管理が仕様書・示方書等の が行われ、結果は全て判定基準 が行け管理が仕様書・示方書等の が理は設計図書どおり行われて しの径・削孔長が確認できる。 に氏既鉄筋の切断をしていない。 はに既鉄筋の切断をしていない。 はは規定どおり行われ、結果に できな。 には現まとおり行われ、結果に できる。 には現まが、 には、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、	・測定頻度とも満足している。 はり間隔等が確認できる。 はり行われている。 はを満たしている。 規定どおり行われ、必要な試験が いる。 とが確認できる。 は判定基準を満たしている。 われている。	が行われている。 対象項目数が2項目以下なので	_ C評価とする	●判断基準 ・該当項目が90%以上・・・・ ・該当項目が80%以上90%未決 ・該当項目が70%以上80%未決 ・該当項目が60%以上70%未決 ・該当項目が60%未満・・・・	請・・・・・a' 請・・・・b 請・・・・b'

別紙3-4-12

考査項目別運用表

考査項目	工種	а	b	С	d			
	工 1里	優れている	やや優れている	他の評価に該当しない	劣っている			
3. 出来形及								
ひ出来映		●該当する項目の□に「レ」印を記入する。		●判断基準				
· -	(洛穑防止丄事	1 コンクリート表面は平滑で良く締め固められている	0	該当6項目以上・・・a				
Ⅲ. 出来映え	を含む)	2 コンクリート面にジャンカ・あばた・型枠の目違い等	がない。	該当4、5項目・・・b				
		3 現場塗装は、たれ・しわ・ゴミ巻込み等の欠陥がな	く、ていねいに仕上げられている。	該当3項目・・・・c				
		4 溶接面には欠陥がなく、ていねいに仕上げられて	いる。	該当2項目以下・・・d				
		5 既設構造物とのすりつけが良い。						
		6 塗装・溶接・コンクリート面の手直しは、ていねいに	行われている。					
		7 全体的な美観が良い。						

(検査員)

考査項目	細別	а	a'	b	b'	С	d	е
3. 出来形及 び出来映 え	護岸・根固・ 水制工事	記入し、評価の対象とな ② 「レ」印を記入した項目 ③ 対象欄に「レ」印のある ④ 評価値 (%)=該 ⑤ なお、評価対象項目数が	らない場合は空欄とする。	[目数 () ⁻ る。	_		品質関係の測定方法又は測定 値が不適切であったため、監 督員が文書で指示を行い改善 された。	日質関係の測定方法又は測定 値が不適切であったため、検 査員が修補指示を行った。
II. 品質		2 裏込材及び胴込め 石ご 3 緑化ブロっていて エ	積(張)、法枠、かごマット。とが確認できる。 いて、大きさ及び重さが設計「線部の処理が適切であり、必 の幅で重ね合わせられ、端部、 種類、品質、配合及び養生が、 沈床工、捨石工等において、が 、証明書類で確認できる。 掘り過ぎが無く施工している。 ック等を損傷無く設置してい 床掘箇所の湧水及び滞水等は、 で、設計図書の仕様を満足し 無い。	頭が生じないよう十分に行って 等における材料のかみ合わせ又 図書の仕様を満足していること 要な強度及び水密性を確保して 処理が設計図書の仕様を満足してい は計図書の仕様を満足してい 材料の連結及びかみ合わせが設 ことが確認できる。 ることが確認できる。 、排除して施工していることが ていることが確認できる。	は連結が、裏込材の吸出しが無が確認できる。いることが確認できる。ていることが確認できる。ることが確認できる。計図書の仕様を満足しているこ	٤.	●判断基準 ・該当項目が80%以上・・・・ ・該当項目が80%以上90%未減・該当項目が70%以上80%未減・該当項目が60%以上70%未減・該当項目が60%未満・・・・※評価対象項目数が2項目以T	情・・・・ a' 情・・・・ b 情・・・・ b' ・・・・ c

別紙3-4-13

考査項目別運用表

					(大旦吳/
考査項目	工種	а	b	С	d
万直坝口	上 裡	優れている	やや優れている	他の評価に該当しない	劣っている
3. 出来形及び出来映え 出来映え	護岸・根固・水制工事	●該当する項目の□に「レ」印を記入する。		●判断基準 該当4項目以上・・・a 該当3項目・・・・ b 該当2項目・・・・ c 該当1項目以下・・・ d	

(検査員)

考査項目	細別	а	a'	b	b'	С	d	е
3. 出来形及 び出来映 え	矢板護岸	③ 対象欄に「レ」印のある項④ 評価値(%)=該当⑤ なお、評価対象項目数が2	ない場合は空欄とする。 ついて該当する場合は「判定」 目数を分母として比例計算の値		□ 品質関係の測定方法又は測定 値が不適切であったため、監			
I. 品質		□ 2 材料の品質規格証□ 3 盛土・埋戻の施工□ 4 施工基面及び法面□ 5 護岸の端部や曲線□ 6 矢板の打ち込みは□ 7 切梁、腹起類の接□ 8 溶接施工上の注意□ 9 塗装施工上の注意□ 10 コンクリート構造□ 11 コンクリートの養	:	です条件により適切に行われて (出来上がりが波を打っていたである。 、倒れがなく、かみ合わせが近 いる。 いる。 こいることが確認できる。 でいることが確認できる。	;(\ _°)	C評価とする	●判断基準 ・該当項目が80%以上・・・・ ・該当項目が80%以上90%未減 ・該当項目が60%以上70%未減 ・該当項目が60%以上70%未減 ・該当項目が60%未満・・・ ※評価対象項目数が2項目以7	請・・・・・a' 高・・・・・b 高・・・・・b' ・・・・・c

別紙3-4-14

考査項目別運用表

					(人主义)		
考査項目	工種	а	b	С	d		
		優れている	やや優れている	他の評価に該当しない	劣っている		
3. 出来形及 び出来映	矢板護岸	●該当する項目の□に「レ」印を記入する。		●判断基準			
え		□ 1 矢板のとおりが良い。	該当5項目以上・・・a				
		2 材料のかみ合わせが良い。		該当4項目・・・・b			
皿. 出来映え		□ 3 天端、端部の仕上げが良い。		該当3項目・・・・・c			
		□ 4 コンクリート構造物の表面状態が良い。		該当2項目以下・・・d			
		□ 5 既設構造物とのすりつけが良い。					
		□ 6 全体的な美観が良い。					

(検査員)

考査項目	細別	а	a'	b	b'	С	d	е
3. 出来形及 び出来映 え	石積工事、ブロック積み工事	記入し、評価の対象とな ② 「レ」印を記入した項目 ③ 対象欄に「レ」印のある ④ 評価値 (%)=該 ⑤ なお、評価対象項目数が	らない場合は空欄とする。	 [目数() [*] る。	_		日 日質関係の測定方法又は測定 値が不適切であったため、監 替員が文書で指示を行い改善 された。	
II. 品質		2 石又はブロック 3 ブロックのかみ 4 水抜管の位置 5 裏込めコンクリー 6 裏込め材はブロートの引き 8 コンクリートの引き 9 伸縮目地は的引き 11 植生工で、植生 12 有害なクラックに	を生は十分に行われている。 丁継処理は泥、レイタンス等を除え 確な位置に施工されている。 等の処理が設計図書の規定どおり この種類、品質、配合、施工後の多が無い。	以除き施工している。 れている。 も規定どおり確保されている。 らり施工されている。 いよう締固めながら積み上げている ましている。 り施工されている。 集生が適切である。	う。 対象項目数が2項目以下なので	▼C評価とする	●判断基準 ・該当項目が90%以上・・・・ 該当項目が80%以上90%未減 ・該当項目が70%以上80%未減 ・該当項目が60%以上70%未減 ・該当項目が60%未満・・・・	ล้ · · · · · a ' ล้ · · · · · b ล้ · · · · · b '

別紙3-4-15

考査項目別運用表

						(校員員)			
	考査項目	工 種	а	b	С	d			
		工 1里	優れている	やや優れている	他の評価に該当しない	劣っている			
3	出来形及								
	び出来映	石積工事、ブロッ	●該当する項目の□に「レ」印を記入する。		●判断基準				
	^	ク積み工事	1 構造物の通りが良い。		該当6項目以上・・・a				
ш	出来映え		2 構造物の通りが良い。		該当4、5項目・・・b				
			3 隣接構造物・地山等との取付け・すり合せがよい。		該当3項目・・・・・c				
			4 構造物の表面等の手直しは、ていねいに行われて		該当2項目以下・・・d				
			5 水抜管等の端部はていねいに仕上げられていた。		以当2 有日以下 G				
			6 目地板はていねいに切り揃えられていた						
			7 全体的な美観がよい。						

(検査員)

考査項目	細別	а	a'	b	b'	С	d	е
び出来映え	コンクリート 二次製品 水 ボッリー 水 製 ボック し 型 、 ボック 、 ボバー ク 、 水 路 等) 積 み 水 路 等)	記入し、評価の対象とな ② 「レ」印を記入した項目 ③ 対象欄に「レ」印のある ④ 評価値 (%)=該 ⑤ なお、評価対象項目数が	において評価の対象となる場合 らない場合は空欄とする。 について該当する場合は「判定 頃目数を分母として比例計算の 当項目数()/評価対象項 2項目以下の場合は。評価とす 示を行った場合には、上記評価	品質関係の測定方法又は測定 値が不適切であったため、監 個が文書で指示を行い改善 された。	品質関係の測定方法又は測定 値が不適切であったため、検 査員が修補指示を行った。			
II. 品質		2 法面や製品天端の 3 締固めが適切にす 4 護岸等の根入れか 5 コンクリート構造 6 寸法誤差が少なく 7 二次製品の吊りジ	施されている。 図面通り実施されていることが 物に、きめ細かな施工がうかか 、表面状況のよい製品が使用さ み、据付の際に常に十分な注意 おらず、水路の機能を満足して	がえる。 れていることが確認できる。 まを払っていることが確認でき いる。	る。 対象項目数が2項目以下なので	C評価とする	●判断基準 ・該当項目が90%以上・・・ ・該当項目が80%以上90%未消 ・該当項目が70%以上80%未消 ・該当項目が60%以上70%未消 ・該当項目が60%未満・・・	満・・・・・a' 満・・・・ b 満・・・・ b'

別紙3-4-16

考査項目別運用表

考査項目	工種	а	b	С	d
		優れている	やや優れている	他の評価に該当しない	劣っている
3. 出来形及び出来 映え 出来映え	コンクリートニ次製品水路工事	●該当する項目の□に「レ」印を記入する。 1 ±工の仕上げが良い。 2 ±工の通りが良い。 3 ±工の構造物等へのすりつけが良い。 4 コンクリート構造物等の通りが良い。 5 天端仕上げ、端部仕上げ等が良い。 6 施設の通りが良い。 (排水側溝、フェンス等) 7 全体的な美観が良い。		●判断基準 該当6項目以上・・・ a 該当4、5項目・・・ b 該当3項目・・・・ c 該当2項目以下・・・ d	

(検査員) 考查項目 細別 С 3. 出来形及 び出来映 え 二次製品水路 工事 品質関係の測定方法又は測定 品質関係の測定方法又は測定 ① 評価対象項目が当該工事において評価の対象となる場合には「対象」欄の口に「レ」印を 値が不適切であったため、監 | | | | | | | | | | | 値が不適切であったため、検 記入し、評価の対象とならない場合は空欄とする。 |査員が修補指示を行った。 「レ」印を記入した項目について該当する場合は「判定」欄の口に「レ」印を記入する。 ーェ (L型、ボッ 対象欄に「レ」印のある項目数を分母として比例計算の値で評価する。
 (④) 評価値 (%) =該当項目数 () /評価対象項目数 () クスカルバー ト、ブロック ⑤ なお、評価対象項目数が2項目以下の場合はc評価とする。 積み水路等) ⑥ また、文書による改善指示を行った場合には、上記評価によらず d、 e 評価とする。 Ⅱ. 品質 【ボックスカルバート関係】 施工基面が平滑に仕上げられている。 2 法面や製品天端の通りがよい。 締固めが適切に実施されている。 養岸等の根入れが図面通り実施されていることが確認できる。 b コンクリート構造物に、きめ細かな施工がうかがえる。 b 寸法誤差が少なく、表面状況のよい製品が使用されていることが確認できる。 7 二次製品の吊り込み、据付の際に常に十分な注意を払っていることが確認できる。 3 漏水等が発生しておらず、水路の機能を満足している。 【杭基礎関係】 ・該当項目が90%以上・・・・・・a □ □ 9 杭に損傷及び補修痕が無いことが確認できる。 ・該当項目が80%以上90%未満・・・・a ┃ ┃ ┃ 10 既製杭の打止め管理の方法が整備されており、その記録を整理していることが確認できる。 ・該当項目が70%以上80%未満・・・・b ·該当項目が60%以上70%未満・・・・b' □ 11 杭頭処理において、杭本体を損傷していないことが確認できる。 ・該当項目が60%未満・・・・・c □ 12 水平度、鉛直度等が、設計図書を満足していることが確認できる。 ※評価対象項目数が2項目以下の場合はc評価とする。 □□□13 その他(0% = 該当項目数 0 /評価対象項目数 0 評価対象項目数が2項目以下なのでC評価とする

別紙3-4-17

考查項目別運用表

					(検査員)
考査項目	工種	a	b	С	d
		優れている	やや優れている	他の評価に該当しない	劣っている
3. 出来形及 び出来映 え 皿. 出来映え		優れている ●該当する項目の口に「レ」印を記入する。 1 土工の仕上げが良い。 2 構造物等へのすりつけが良い。 3 コンクリート構造物等の通りが良い。 4 天端七上げ、端部杜上げ等が良い。 5 舗装等の仕上げ、ずり付け等が良い。 6 施工管理記録などから不可視部分の出来ばえ 7 全体的な美観が良い。		他の評価に該当しない ●判断基準 該当6項目以上・・・a 該当4、5項目・・・ b 該当3項目・・・・ c 該当2項目以下・・・ d	劣っている

(検査員) 考查項目 細別 С 3. 出来形及 び出来映 え 二次製品水路 工事 品質関係の測定方法又は測定 品質関係の測定方法又は測定 ① 評価対象項目が当該工事において評価の対象となる場合には「対象」欄の口に「レ」印を 値が不適切であったため、監 | | | | | | | | | | | 値が不適切であったため、検 記入し、評価の対象とならない場合は空欄とする。 |査員が修補指示を行った。 「レ」印を記入した項目について該当する場合は「判定」欄の口に「レ」印を記入する。 ーェ (L型、ボッ 対象欄に「レ」印のある項目数を分母として比例計算の値で評価する。 評価値 (%)=該当項目数()/評価対象項目数() クスカルバー 3 対象機に・24 評価値(ト、ブロック ⑤ なお、評価対象項目数が2項目以下の場合はc評価とする。 積み水路等) ⑥ また、文書による改善指示を行った場合には、上記評価によらず d、 e 評価とする。 Ⅱ. 品質 【ボックスカルバート関係】 施工基面が平滑に仕上げられている。 2 法面や製品天端の通りがよい。 B 締固めが適切に実施されている。 禁岸等の根入れが図面通り実施されていることが確認できる。 b コンクリート構造物に、きめ細かな施工がうかがえる。 b 寸法誤差が少なく、表面状況のよい製品が使用されていることが確認できる。 7 二次製品の吊り込み、据付の際に常に十分な注意を払っていることが確認できる。 3 漏水等が発生しておらず、水路の機能を満足している。 【仮設関係等】 □ □ 9 土留工が適切に施工されている。 ・該当項目が90%以上・・・・・・ a ┃ ┃ 10 掘削時の湧水等に対して、適切な排水対策を実施している。 ·該当項目が80%以上90%未満・・・・a ・該当項目が70%以上80%未満・・・・b □ 11 舗装復旧が施工管理基準に基づき、適切に施工されている。 ·該当項目が60%以上70%未満・・・・b □ 12 混合物の温度管理が、プラント出荷時・現場到着時・舗設時等で整理・記録されている。 ・該当項目が60%未満・・・・・ c □ 13 地盤改良工の施工管理状況がデータで確認できる。 ※評価対象項目数が2項目以下の場合はc評価とする。 □ □ 14 その他 理由 評価値 0% = 該当項目数 0 /評価対象項目数 0 評価対象項目数が2項目以下なのでC評価とする

別紙3-4-18

考查項目別運用表

					(1大旦貝/
考査項目	工種	а	b	С	d
7.10		優れている	やや優れている	他の評価に該当しない	劣っている
3. 出来形及 び出来映	コンクリートニ次製品水路工事			他の評価に該当しない ●判断基準 該当6項目以上・・・a 該当4、5項目・・・b 該当3項目・・・・c 該当2項目以下・・・d	劣っている

(検査員)

Г	考査項目	細別	а	а'	b	b'	С	d	е
3	3. 出来形及 び出来映 え	二次製品構造 物(用排水施 設)	記入し、評価の対象とな ② 「レ」印を記入した項目 ③ 対象欄に「レ」印のある ④ 評価値(%)=該 ⑤ なお、評価対象項目数が	工事において評価の対象となる場合には「対象」欄の口に「レ」印を とならない場合は空欄とする。 項目について該当する場合は「判定」欄の口に「レ」印を記入する。 ある項目数を分母として比例計算の値で評価する。 =該当項目数()/評価対象項目数() 数が2項目以下の場合は。評価とする。 善指示を行った場合には、上記評価によらずd、e評価とする。				品質関係の測定方法又は測定 値が不適切であったため、監 督員が文書で指示を行い改善 された。	A質関係の測定方法又は測定 値が不適切であったため、検 査員が修補指示を行った。
1	I. 品質		2 材料の品質規別 3 JIS規格外品に 4 基礎地盤の整列 5 二次製品の保管 6 土留め、ウェル 7 位置、方向、高 8 不等沈下防止 9 呑口、、吐口、集 10 施設の流下の発生 11 不等部の目地 13 製品の継目部 14 製品の継目部 15 その他	かられている品質管理が実施され 定証明書が整備されている。 こついて、仕様書で規定する規格、 形、清掃、湧水処理等が適切に実 管、吊り込み、据え付け等に十分、 ポイント等の仮設が設計図書にま さ、勾配等について前後の施設が こ配慮して、基盤地盤の締固めか 水桝等の取り付けコンクリートに、 曼食、滞留等が生じないよう処理・ まがなく、基礎コンクリートの亀裂 といない、基礎コンクリートの亀裂 といない、基礎コンクリートの亀裂 と、埋戻土の施工にあたり、巻出 には隙間、ズレがなく、適切に施工 は、運発土の施工にあたり、巻出 には隙間、ズレがなく、適切に施工	品質を満足している。 は施されていることが確認できる。 主意を払っていることが確認できます。 まづき適切に施工・管理されている。 は地形になじみよく施工されている。 でラック等の欠陥が無い。 されている。 や継目部からの漏水も見られない。 こ、転圧が適切に施工されている。	ることが確認できる。 いる。 い。		●判断基準 ・該当項目が90%以上・・・ ・該当項目が80%以上90%未済 ・該当項目が70%以上80%未済 ・該当項目が60%以上70%未済 ・該当項目が60%未満・・・	請・・・・・a' 請・・・・b 請・・・・b'

別紙3-4-19

考査項目別運用表

					()/12//		
考査項目	工種	а	b	С	d		
	_ 1E	優れている	やや優れている	他の評価に該当しない	劣っている		
3. 出来形及			•				
ひ出来映 え	二次製品構造物	●該当する項目の□に「レ」印を記入する。					
^		1 構造物の通りが良い。					
皿. 出来映え		2 材料の連結、かみ合わせが良い。	該当4項目・・・・b				
		3 天端及び端部の仕上げ等が良い。		該当3項目・・・・・c			
		4 クラックが無い。	数当2項目以下・・・d				
		5 漏水が無い。					
		6 全体的な美観が良い。					

(検査員) 考査項目 細別 e 品質関係の測定方法又は測 定値が不適切であったた め、検査員が修補指示を 行った。 出来形及 び出来映 え (用排水施 え) 品質関係の測定方法又は測 定値が不適切であったた め、監督員が文書で指示を 行い改善された。 野師対象項目が当該工事において評価の対象となる場合には「対象」欄の口に「レ」印を記入し、評価の対象とならない場合は空欄とする。
 「レ」印を記入した項目について該当する場合は、判定、欄の口に「レ」印を記入する。
 対象機に「レ」印のある項製を分母として比例計象の値で評価する。
 「対機能(「シ」・シー語は可見数() / 評価が減水用数()
 」 ちは、評価である。
 「おおいまの表 I. 品質 対象 判定 【地下貯留施設】 (18) 内間施設 1 仕様書寺で定められている品質管理が実施されている。
2 材料の品質規定証明書が整備されている。
3 JIS規格外品について、仕様書で規定する規格、品質を満足している。
4 基礎地盤の整形、清格、湧水処理等が適切に実施されていることが確認できる。
5 二次製品の保管、吊り込み、据え付け等に十分注意を払っていることが確認できる。
6 土留め、ウェルポイント等の仮設が設計図書に基づき適切に施工・管理されていることが確認できる。 ●判断基準 - 該当項目が90%以上 90%未満 a 該当項目が00%以上90%未満 b 該当項目が70%以上90%未満 b 該当項目が00%以上70%未満 b 該当項目が60%以上70%未満 c イ田の、クエルバーノーマックはなかな所である。
 イ世震、方向、高さ、勾に等について前後の施設又は地形となどかよく施工されている。
 不等沈下防止に配慮して、基盤地盤の締固めが特に入念に行われている。
 呑口、吐口、集水桝等の取り付けコンクリートにクラック等の欠陥が無い。 9 台山、吐口、米水内寺の成り計「コノケリートにファブウェッス畑か無い。 10 施設の流末は侵食、滞留等が生じないよう処理されている。 11 不等次下の発生がなく、基礎コンケリートの亀裂や雑目都からの漏水も見られない。 12 継目都の目地モルタルが適切に施工されている。 15 音楽の規格・結賞がミルシートで確認できる。
16 音神等の工事資材が適切に保管されていることが確認できる。
17 土留工が適切に施工されている。
18 掘削納の湧水等に対して、適切な排水対策を実施している。
19 埋具し、締個かを適切な条件で施工しており、管の周辺に空隙が生じていない。
20 管路床付面が良好な仕上げとなっている。
21 管渠の接合状況が負好であることが確認できる。 【登地・グラウンド復旧等】 22 締固めが設計図書に定められた条件を満足していることが確認できる。 23 公園内等の既存施設について、支障なく復旧されている。 □ □ 24 その他 ſ

別紙3-4-20

考查項目別運用表

			12/1/1/2/1/2/			
					(検査	
考査項目	工種	a	b	c	d	
		優れている	やや優れている	他の評価に該当しない	劣っている	
. 出来形及						
び出来映え	二次製品構造物	●該当する項目の□に「レ」印を記入する。		●判断基準		
~		□ 1 構造物の通りが良い。	該当6項目以上・・・a			
出来映え		2 材料の連結、かみ合わせが良い。		該当4、5項目・・・b		
		□ 3 天端及び端部の仕上げ等が良い。		該当3項目・・・・・c		
		□ 4 クラックが無い。	該当2項目以下・・・d			
		□ 5 漏水が無い。				
		□ 6 施工管理記録等から不可視部分の出来ばえの良	さが伺える。			
		□ 7 全体的な美観が良い。				

(検査員)

考査項目	細別	а	а'	b	b'	С	d	е
3. 出来形及 び出来映 え	二次製品構造 物 [擁壁類 (補強土擁壁 は除く)]	記入し、評価の対象とな ② 「レ」印を記入した項目 ③ 対象欄に「レ」印のある。 ④ 評価値 (%) = 該 ⑤ なお、評価対象項目数が	において評価の対象となる場合 らない場合は空欄とする。 について該当する場合は「判定 項目数を分母として比例計算の 当項目数 () /評価対象項 2項目以下の場合は c 評価とす 示を行った場合には、上記評価	」欄の□に「レ」印を記入する 値で評価する。 目数 () る。	_		品質関係の測定方法又は測定 値が不適切であったため、監 督員が文書で指示を行い改善 された。	品質関係の測定方法又は測定 値が不適切であったため、検 査員が修補指示を行った。
II. 品質		2 材料の品質規別 3 J I S規格外品 4 基礎地盤の整形 5 二次製品の保管 6 土留め、ウェリ 7 胴込コンクリー 8 基礎コンクリー 9 材料の連結まる。 11 丁張りを2重、 12 コングラート・ 確認できる。	かられている品質管理が実施さ 定証明書が整備されている。 品について、仕様書で規定する 形、清掃、湧水処理等が適切に 管、吊り込み、据え付け等に十 レポイント等の仮設が設計のでも ート、裏込材の充填が十分でクリ たは、かみ合わせが適切にある 也山とのすりつけが適切である。 3重に設けるなど、法勾配、 坂擁壁の施工にあたり、ソイル	規格、品質を満足している。 実施されていることが確認でき 分注意を払っていることが確認 に基づき適切に施工・管理され 隙が生じていない。 ートにクラック等の欠陥が無い されていることが確認できる。 。 裏込め材の厚さの確保のため細 コンクリートの配合、練混ぜ、	できる。 ていることが確認できる。 、。	.)	●判断基準 ・該当項目が90%以上・・・・ ・該当項目が80%以上90%未減・該当項目が70%以上80%未減・該当項目が60%以上70%未減・該当項目が60%未満・・・・	馬・・・・・a' 馬・・・・ b 馬・・・・・b'

別紙3-4-21

考査項目別運用表

					(次旦兵/		
考査項目	工種	а	b	С	d		
万里坝口	上 裡	優れている	やや優れている	他の評価に該当しない	劣っている		
3. 出来形及		·					
び出来映	二次製品構造物	●該当する項目の□に「レ」印を記入する。	●判断基準				
1 ~		1 構造物の通りが良い。		該当5項目以上・・・a			
Ⅲ. 出来映え		2 材料の連結、かみ合わせが良い。		該当4項目・・・・b			
		3 天端及び端部の仕上げ等が良い。	該当3項目・・・・・c				
		4 クラックが無い。		該当2項目以下・・・d			
		5 漏水が無い。					
		6 全体的な美観が良い。					

								(
考査項目	細別	а	a'	b	b'	С	d	е
び出来映 え	二次製品構造 物 [擁壁類 (補強土擁壁 は除く)]	記入し、評価の対象とな ② 「レ」即を記入した項目 ③ 対象欄に「レ」印のある ④ 評価値 (%) =該 ⑤ なお、評価対象項目数が ⑥ また、文書による改善指:	らない場合は空欄とする。	目数 () る。			品質関係の測定方法又は測定 値が不適切であったため、監 軽質が文書で指示を行い改善 された。	値が不適切であったため、検
II. 品質		2 材料の品質規型 3 JIS規格外品 4 基礎地盤の整形 5 二次製品の保管 6 土留め、ウェノ 7 胴込コンクリー	かられている品質管理が実施さ を証明書が整備されている。 品について、仕様書で規定する ら、清掃、湧水処理等が適切に 管、吊り込み、据え付け等に十 レポイント等の仮設が設計図空 ート、裏込材の充填が十分で字 ート及び天端等の調整コンクリ		● WINK: 甘 #			
		9 材料の連結まだ 10 端部における地 11 T張りを2重、 11 T張りを2重、 12 コンクリートも が確認できる. [地盤改良]	には、かみ合わせが適切に実施 也山とのすりつけが適切である 3重に設けるなど、法勾配、 坂擁壁の施工にあたり、ソイル チ管理記録が整理され、設計図 7の比重、スラリー噴出量、強 食を実施し、改良材の選定、必	されていることが確認できる。	出心の注意をはらっている。 打込み、締固め及び養生が適い で確認できる。 こことが確認できる。 うことが確認できる。	切に行われていること	●判断基準 ・該当項目が90%以上・・・ ・該当項目が80%以上90%未 ・該当項目が70%以上80%未 ・該当項目が60%以上70%未 ・該当項目が60%以上70%未 ・該当項目が60%未満・・・	満・・・・a' 満・・・・b 満・・・・b'
		17 その他 (理	由: 該当項目数 0 /評価		対象項目数が2項目以下なので	C評価とする		

別紙3-4-22

考査項目別運用表

					(検査員)			
考査項目	工種	a	b	С	d			
与重项日		優れている	やや優れている	他の評価に該当しない	劣っている			
3. 出来形及								
び出来映	二次製品構造物	●該当する項目の□に「レ」印を記入する。		●判断基準				
^		1 構造物の通りが良い。	該当5項目以上・・・a					
Ⅲ. 出来映え		2 材料の連結、かみ合わせが良い。	該当4項目・・・・b					
		3 天端及び端部の仕上げ等が良い。	該当3項目・・・・・c					
		4 クラックが無い。		該当2項目以下・・・d				
		5 漏水が無い。						
		6 全体的な美観が良い。						

(検査員)

考査項目	細別	а	a'	b	b'	С	d	е
3. 出来形及 び出来映 え	仮設工工事	記入し、評価の対象と7 ② 「レ」印を記入した項1 ③ 対象欄に「レ」印のあ。 ④ 評価値(%)= ⑤ なお、評価対象項目数7	事において評価の対象となる場ならない場合は空欄とする。目について該当する場合は「判る項目数を分母として比例計算該当項目数())/評価対象が2項目以下の場合は。評価と指示を行った場合には、上記評	定」欄の口に「レ」印を記入す の値で評価する。 項目数 () する。			品質関係の測定方法又は測定 値が不適切であったため、監 値が来適切であったため、監 督員が文書で指示を行い改善 された。	品質関係の測定方法又は測定 値が不適切であったため、検 査員が修補指示を行った。
Ⅱ. 品質		2 仮設材の組立・ 3 周辺環境(騒音 4 施工記録等によ	ゆがみ、傷がない。 設置が確実になされ、かつ点検も・振動・地盤変動等)に配慮したが にり設計条件に適合した根入れ長 良好な床付け面を確保している。	正工方法で実施している。 で施工されていることが確認でき				
					断基準 該当項目が90%以上・・・・・ 該当項目が80%以上90%未満・ 該当項目が70%以上80%未満・ 該当項目が60%以上70%未満・ 該当項目が60%未満・・・・	· · · · a' · · · · b · · · · b'		
			由: 該当項目数 0 /評価:	対象項目数 0 評価3	対象項目数が2項目以下なので	C評価とする		

別紙3-4-23

考査項目別運用表

****	T 15	а	b	С	d	
考査項目	工種	優れている	やや優れている	他の評価に該当しない	劣っている	
3. 出来形及			•	•	•	
ひ出来映え	仮設工工事	●該当する項目の□に「レ」印を記入する。		●判断基準		
1 7		1 鋼矢板・親杭の通りが良い。		該当5項目以上・・・a		
Ⅲ. 出来映え	2 覆工板にがたつきが無い。			該当4項目・・・・b		
		3 鋼矢板のかみ合わせ等不良部分が無い。		該当3項目・・・・・c		
		4 床付け面の仕上げが良い。		該当2項目以下・・・d		
		5 施工管理記録等から不可視部分の出来ばえの」	良さが伺える。			
		6 全体的な美観が良い。				

(検査員)

考査項目	細別	а	a'	b	b'	С	d	е
3. 出来形 び出来 え		記入し、評価の対象とな ② 「レ」印を記入した項目 ③ 対象欄に「レ」印のある ④ 評価値(%)=該 ⑤ なお、評価対象項目数が	において評価の対象となる場合 らない場合は空欄とする。 について該当する場合は「判定 項目数を分母として比例計算の 当項目数()/評価対象項 2項目以下の場合はで評価とす 示を行った場合には、上記評価	:」欄の口に「レ」印を記入する 値で評価する。 [目数 () る。			品質関係の測定方法又は測定 値が不適切であったため、監 督員が文書で指示を行い改善 された。	品質関係の測定方法又は測定 値が不適切であったため、検 査員が修補指示を行った。
Ⅱ. 品質		2 管渠の規格・品 2 管渠の規格・品 3 管材等の工事 4 土留工が適切 5 掘削時の湧水 6 埋戻し、締固め 7 管路床付面が 8 管渠の接合状 9 取付管が適切 10 舗装復旧が施 11 混合物の温度 11 混合物の温	等に対して、適切な排水対策を実 を適切な条件で施工しており、管 良好な仕上げとなっている。 兄が良好であることが確認できる に施工(接合、配管状況を含む)さ 工管理基準に基づき、適切に施工 管理が、プラント出荷時・現場到着	が確認できる。 施している。 の周辺に空隙が生じていない。 。 されていることが確認できる。 されている。 背時・舗設時等で整理・記録されて	いる。 対象項目数が2項目以下なので	_ C評価とする	●判断基準 ・該当項目が90%以上・・・・ ・該当項目が80%以上90%未満 ・該当項目が70%以上80%未満 ・該当項目が60%以上70%未満	ท็∙•••a' ท็••••b

別紙3-4-24

考査項目別運用表

考査項目	工種	а	b	С	d
	_ =	優れている	やや優れている	他の評価に該当しない	劣っている
3. 出来形及 び出来映				他の評価に該当しない ●判断基準 該当5項目以上・・・ a 該当4項目・・・・ b 該当3項目・・・・ c 該当2項目以下・・・ d	劣っている

(検査員)

考査項目	細別	а	a'	b	b'	С	d	е
3. 出来形及 び出来映 え	下水道工事(推進工)	記入し、評価の対象とな ② 「レ」印を記入した項目 ③ 対象欄に「レ」印のある。 ④ 評価値 (%) =該 ⑤ なお、評価対象項目数が	において評価の対象となる場合 らない場合は空欄とする。 について該当する場合は「判定 項目数を分母として比例計算の 当項目数())/評価評価とす 2項目以下の場合は。評価とす 示を行った場合には、上記評価		■ 品質関係の測定方法又は測定 値が不適切であったため、監 督員が文書で指示を行い改善 された。	品質関係の測定方法又は測定 値が不適切であったため、検 査員が修補指示を行った。		
II. 品質		2 管渠の規格・品 3 管材等の工事 3 管材等の工事 3 管材等の工事 3 管材等の工事 3 管材等の工事 5 コンクリート 供記 6 コンクリート 供記 7 施工条件及び 5 収暑 中コンクリー 8 立坑及び A 7 の 温 2 混合物の温度 6 10 舗装復旧が施二 11 掘削時の 湧水削 12 測量及び観測料 12 測量なび観測料 13 常に切羽及び 13 常に切羽及び 14 推進作業等 が 15 地盤 改良工の 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	投時の必要な供試体を採取し、強度 (体が当該現場の供試体であるこ 高象条件に適した運搬時間、打設 一ト等を含む) の埋戻し、締固めを適切な条件で 管理が、ブラント出荷時・現場到着 に管理基準に基づき、適切に施工 等に対して、適切な排水対策を実 計果を毎日整理して、たれに基づい も表面の状態を観測して施工され データで確認できる。 を工管理状況がデータで確認でき 由:	が確認できる。	る。 一タの機種、養生方法等、適切に 生じていない。 いる。	行っている。(寒中及	●判断基準 ・該当項目が80%以上90%未清・該当項目が70%以上80%未清・該当項目が70%以上80%未清・該当項目が60%以上70%未清・該当項目が60%未満・・・・※評価対象項目数が2項目以下	i · · · · · a' i · · · · · b i · · · · · b' · · · · · c

別紙3-4-25

考査項目別運用表

					(人五天)			
考査項目	工種	а	b	С	d			
行直項日		優れている	やや優れている	他の評価に該当しない	劣っている			
3. 出来形及				-				
り 日米映	下水道工事(推	●該当する項目の□に「レ」印を記入する。		●判断基準				
1 1	進工)	1 通りが良い。		該当5項目以上・・・a				
Ⅲ. 出来映え		2 漏水が無い。		該当4項目・・・・b				
		3 クラックが無い。		該当3項目・・・・c				
		4 マンホール天端と路面とのすりつけが良い。		該当2項目以下・・・d				
		5 マンホールのインバートの仕上げが良い。						
		6 施工管理記録等から不可視部分の出来ばえの良さか	「伺える。					

(検査員)

考査項目	細別	a	a'	b	b'	С	d	е
3. 出来形及 び出来映 え	下水道工事 (開削工+推 進工)	記入し、評価の対象とな ② 「レ」印を記入した項目 ③ 対象欄に「レ」印のある ④ 評価値 (%)=該 ⑤ なお、評価対象項目数が	において評価の対象となる場合 らない場合は空欄とする。 について該当する場合は「判定 項目数を分母として比例計算の 項項目数 () /評価対象項 2項目以下の場合は。評価とす 示を行った場合には、上記評価	」欄の口に「レ」印を記入する 値で評価する。 目数 () る。	_		品質関係の測定方法又は測定 値が不適切であったため、監 軽負が文書で指示を行い改善 された。	品質関係の測定方法又は測定 値が不適切であったため、検 査員が修補指示を行った。
II. 品質		2 管渠の規格・品 3 管材等のの運動が 4 土留工が適切に 5 掘削時の湧がへ 6 埋戻し、締面がら 8 管線の接合切い 10 舗装復旧の高速で 11 混合物の温とです。 12 設計図書に表さる 第)が確認とです。 13 コンクリート供試 び暑中コンクリー 16 測量及び観測制 17 常に切羽及び地 18 推進作実良工の制 19 地盤改良工の制 20 その他	学に対して、適切な排水対策を実施を適切な条件で施工しており、管心を対な仕上げとなっている。 「記が良好であることが確認できる。 施工(接合、配管状況を含む)さい。 管理地、ブラント出荷時・現場到着 が(コンクリートの配合試験及び試) を時の必要な供試体を採取し、強圧 体が当該現場の供試体であるこれ(象条件に適した運搬時間、打設) は果を毎日整理し、それに基づいた。 は果を毎日整理し、それに基づいた。 は果を毎日整理し、それに基づいた。 は果を毎日整理し、で加工された。 で確認できる。 を正管理状況がデータで確認できる。	が確認できる。 他している。 の周辺に空隙が生じていない。 れていることが確認できる。 されている。 時・舗設時等で整理・記録されて(験練りが行われており、適切なコ: 度・スランプ・空気量等が確認でき とが確認できる。 時の投入高さ、締固時のバイブレ に施工が行われていることが確認 でいることが確認できる。 る。	ンクリートの規格(強度・w/c・最2 る。 ータの機種、養生方法等、適切に	行っている。(寒中及	●判断基準 ・該当項目が90%以上・・・・ ・該当項目が80%以上90%未減 ・該当項目が60%以上80%未減 ・該当項目が60%以上70%未減 ・該当項目が60%未滿・・・・	情・・・・・a' 情・・・・・b 情・・・・・b'
FILKE O O OF								

別紙3-4-26

考査項目別運用表

					(検査員)		
****	T 15	а	b	С	d		
考査項目	工種	優れている	やや優れている	他の評価に該当しない	劣っている		
3. 出来形及				-			
び出来映	下水道工事(開削	●該当する項目の□に「レ」印を記入する。		●判断基準			
~	工+推進工)	1 通りが良い。		該当5項目以上・・・a			
Ⅲ. 出来映え		2 漏水が無い。		該当4項目・・・・b			
		3 クラックが無い。		該当3項目・・・・・c			
		4 マンホール天端と路面とのすりつけが良い。		該当2項目以下・・・d			
		5 マンホールのインバートの仕上げが良い。					
		6 施工管理記録等から不可視部分の出来ばえの良さた	「伺える。				

(検査員)

考査項目	細別	а	a'	b	b'	С	d	е
		記入し、評価の対象とな ② 「レ」印を記入した項目は ③ 対象欄に「レ」印のある3 ④ 評価値(%)=該: ⑤ なお、評価対象項目数が ⑥ また、文書による改善指:	において評価の対象となる場合 らない場合は空欄とする。 こついて該当する場合は「判定 項目数を分母として比例計算の 当項目数())/評価対象項 2項目以下の場合は。評価とす 示を行った場合には、上記評価	」欄の口に「レ」印を記入する 直で評価する。 目数 () る。	-		品質関係の測定方法又は測定 値が不適切であったため、監 督員が文書で指示を行い改善 された。	
Ⅱ. 品質		2 管渠の規格・品 3 設計図書に基 塩基総量等)が 4 コンクリート打計 5 コンクリート供書	品の規格・品質がミルシートで確認できる。 質がミルシートで確認できる。 づくコンクリートの配合試験及び記 確認できる。 段時の必要な供試体を採取し、登 は体が当該現場の供試体である	式験練りが行われており、適切な 館度・スランプ・空気量等が確認で		・・最大骨材粒径・		
		(寒中及び暑中	気象条件に適した運搬時間、打計にコンクリート等を含む) 締固めを適切な条件で施工して 管理が、ブラント出荷時・現場到 ま管理基準に基づき、適切に施ま 等に対して、適切な排水対策を実 格・品質がミルシートで確認でき とり、作業員の技量確認を行って ト打設前に、付着物除去のための 也表面の状態を観測して施工され ・業等がデータで確認できる。 兄がデーターで確認できる。	おり、管の周辺に空隙が生じてい 着時・舗設時等で整理・記録され エされている。 8施している。 る。 いる。 の充分な水洗清掃を行っている。 れていることが確認できる。	いない。 ている。	切に行っている。	●判断基準 - 該当項目が90%以上・・・ - 該当項目が80%以上90%未済 - 該当項目が70%以上80%未済 - 該当項目が60%以上70%未済 - 該当項目が60%未満・・・・	ร็∙・・・a' ร็∙・・・b ร็∙・・・b'
Diversion (2) 0.7		18 その他 理	施工管理状況がデータで確認で 由: 該当項目数 0 / 評価		対象項目数が2項目以下なので	_ - C評価とする		

別紙3-4-27

考査項目別運用表

					(校量矣/			
考査項目	工種	а	b	С	d			
7 且 4 口	<u>一 作</u>	優れている	やや優れている	他の評価に該当しない	劣っている			
3. 出来形及		'		-				
び出来映	下水道工事(シー	●該当する項目の□に「レ」印を記入する。		●判断基準				
~	ルドエ)	1 通りが良い。	該当5項目以上・・・a					
皿. 出来映え		2 漏水が無い。		該当4項目・・・・b				
		 3 クラックが無い。		該当3項目・・・・・。				
				該当2項目以下・・・d				
		5 マンホールのインバートの仕上げが良い。						
		6 施工管理記録等から不可視部分の出来ばえの良さ	が伺える。					

(検査員)

考査項目	細別	a	a'	b	b'	С	d	е
3. 出来形及 び出来映 え	管渠更生工事 (製管工法)	記入し、評価の対象とな ② 「レ」印を記入した項目 ③ 対象欄に「レ」印のある ④ 評価値 (%)=該 ⑤ なお、評価対象項目数が	において評価の対象となる場合 らない場合は空欄とする。 について該当する場合は「判定 項目数を分母として比例計算の 当項目数() /評価対象項 2項目以下の場合は c 評価とす 示を行った場合には、上記評価	品質関係の測定方法又は測定 値が不適切であったため、監 値が文書で指示を行い改善 された。	品質関係の測定方法又は測定 値が不適切であったため、検 査員が修補指示を行った。			
Ⅱ.品質		対象 判定						
		2 管内洗浄や劣化剖 3 装置 (機器) のキ 4 裏込め材注入時に 5 裏込め材注入の日 6 裏込め材の供試体 7 その他 理由		フロー値等が確認できる。 きる。 が確認できる。	対象項目数が2項目以下なので	C評価とする	●判断基準 ・該当項目が90%以上・・・・ ・該当項目が80%以上90%未済 ・該当項目が70%以上80%未済 ・該当項目が60%以上70%未済 ・該当項目が60%未満・・・・	ล์・・・・a' ล์・・・・b ล์・・・・b'

別紙3-4-28

考査項目別運用表

					(快量員/
考査項目	工種	а	b	С	d
万里坝口	上 裡	優れている	やや優れている	他の評価に該当しない	劣っている
3. 出来形及 び出来映 え 皿. 出来映え	管渠更生工事 (製管工法)	●該当する項目の□に「レ」印を記入する。 □ 1 更生管の変形・浮上・不陸が無い。 2 更生管の施工箇所上下流の既設管とのすりつ 3 管口や端部の仕上げが良い。 4 浸入水が無い。	けが良い。	●判断基準 該当3項目以上・・・a 該当2項目・・・・ b 該当1項目・・・・ c 該当0項目・・・・ d	

(検査員)

考査項目	細別	а	a'	b	b'	С	d	е
3. 出来形及 び出来映 え	管渠更生工事	記入し、評価の対象とな ② 「レ」印を記入した項目 ③ 対象欄に「レ」印のある ④ 評価値 (%)=該 ⑤ なお、評価対象項目数が	において評価の対象となる場合 にない場合は空欄とする。 について該当する場合は「判定 項目数を分母として比例計算の 当項目数())/評価対象項 (2項目以下の場合は c評価とす 示を行った場合には、上記評価	品質関係の測定方法又は測定 値が不適切であったため、監 軽員が文書で指示を行い改善 された。	品質関係の測定方法又は測定 値が不適切であったため、検 査員が修補指示を行った。			
Ⅱ.品質		2 更生材料の保管が 3 管内洗浄や劣化部 4 既設管の流量か多 5 反転・形成工法の		8できる。 犬況を踏まえた水替工を実施し 比時間のほか、温度・圧力管理 引けられていることが、写真ま	が適切に行われている。	C評価とする	●判断基準 ・該当項目が90%以上・・・・ 該当項目が80%以上90%未減 ・該当項目が70%以上80%未減 ・該当項目が60%以上70%未減 ・該当項目が60%未満・・・・	ล์・・・・a' ล์・・・・b ล์・・・・b'

別紙3-4-29

考査項目別運用表

					(大五兵/
考査項目	工種	а	b	c	d
	-	優れている	やや優れている	他の評価に該当しない	劣っている
3. 出来形及 び出来映 え Ⅲ. 出来映え	管渠更生工事	●該当する項目の口に「レ」印を記入する。 1 更生管の変形・浮上・不陸が無い。 2 更生管の施工箇所上下流の既設管とのすりつ 3 管口や端部の仕上げが良い。 4 浸入水が無い。		●判断基準 該当3項目以上・・・a 該当2項目・・・・ b 該当1項目・・・・ c 該当0項目・・・・ d	<i>3,700</i>

(検査員) 考查項目 細別 b' а С |品質関係の測定方法又は測定 |値が不適切であったため、監 | | 哲員が文書で指示を行い改善 |品質関係の測定方法又は測定 |値が不適切であったため、検 3. 出来形及 上水道工事 ① 評価対象項目が当該工事において評価の対象となる場合には「対象」欄の口に「レ」印を び出来映 (開削) 記入し、評価の対象とならない場合は空欄とする。 査員が修補指示を行った。 配んし、評価の対象とならない場合は全機(5)の。
② 「レ」中を記入して項目について該当する場合は「判定」欄の口に「レ」印を記入する。
③ 対象欄に「レ」印のある項目数を分母として比例計算の値で評価する。
④ 評価値 (%) = 該当項目数 () /評価対象項目数 ()
⑤ なお、評価対象項目数が2項目以下の場合は。評価とする。 された。 ⑥ また、文書による改善指示を行った場合には、上記評価によらず d、e評価とする。 Ⅱ. 品質 対象 判定 【共通·開削】 1 材料が適切に保管管理されており、品質規格証明書が整備されている。 2 継手がチェックシートにより適切に管理され、全継手の写真が整っている。 3 防食措置が適切に施工され、そのことが容易に工事写真から判断できる。 4 管切断及び挿し口加工が適切に行われていることが確認できる。 5 管路の水圧試験が適正に実施され、漏水の無いことが確認されている。 6 掘削時に水替工が適切に実施され、管内が清潔に保たれていることが確認できる。 7 土留工が適切に実施されていることが確認できる。 8 アスファルト舗装の温度管理、密度試験等が適切に行われている。 9 コンクリート打設時に必要な供試体を採取し、強度・スランプ・空気量等が確認できる。 10 給水管取付工事が、仕様書に基づき適切に施工されていることが確認できる。 11 給水管取付工事において、管路全体に所定の水圧試験を実施していることが確認できる。 ●判断基準 ・該当項目が90%以上・・・・・ a ·該当項目が80%以上90%未満・・・・a ・該当項目が70%以上80%未満・・・・b ·該当項目が60%以上70%未満・・・・b ・該当項目が60%未満・・・・・c | | 12 その他 (評価値 0% = 該当項目数 0 /評価対象項目数 0 評価対象項目数が2項目以下なのでC評価とする

別紙3-4-30

考查項目別運用表

					(快宜貝/				
考査項目	工種	a	b	c	d				
5 直視日		優れている	やや優れている	他の評価に該当しない	劣っている				
3. 出来形及									
ひ出来映	上水道工事	●該当する項目の□に「レ」印を記入する。		●判断基準					
1 ~	(開削)	1 管の通りが良い。	該当 4 項目以上・・・a						
皿. 出来映え		2 管から漏水が無い。							
		3 クラックが無い。	該当2項目・・・・・c						
		4 弁筺等の仕上げが良い。		該当1項目以下・・・d					
		5 全体的な美観が良い。							

(検査員)

考査項目	細別	a	a'	b	b'	С	d	е
3. 出来形及 び出来映 え II. 品質	上水道工事 (開削+推進)	(4) 評価値 (%) = 該当 ⑤ なお、評価対象項目数が2 ⑥ また、文書による改善指示 対象 判定	ない場合は空欄とする。 ついて該当する場合は「判定」 目数を分母として比例計算の値 「項目数()/評価対象項目 項目以下の場合は c 評価とする	欄の口に「レ」印を記入する。 「で評価する。 数()。			品質関係の測定方法又は測定 値が不適切であったため、監督員が支書で指示を行い改善された。	品質関係の測定方法又は測定 値が不適切であったため、検 査員が修補指示を行った。
別紙3一個一名		2 継手がチェック: 3 防食措置が通い 4 管切断が通い 5 管路の水圧試験 6 掘削時に水通舗 8 アスフルト 11 給水管取付 11 給水管取付 13 推進常 12 常に切羽及び切 13 推進船改良ケラッ 16 挿入管と推進管 17 その他 理由	保管管理されており、品質規格証明 シートにより適切に管理され、全網 別に施工され、そのことが容易に工 の加工が適切に行われているこ。 会が適正に実施され、湯 内が清潔 に実施されていることが確認できる。 とまりに必要な供試体を採取し、適は時に必要な供試体を採取し、適は時に必要な供試体を保下定の水 化様書に基づき適切に施工 等において、管路全体に所定の水 地表面の状態を観測して施工され・データで確認できる。 他工管理状況がデータで確認できる。 他工管理状況がデータで確認できる。 他工管理状況がデータで確認できるとの離隔、空隙への充填材料・施との離隔、空隙への充填材料・施	手の写真が整っている。 上事写真から判断できる。 とが確認できる。 ことが確認されている。 に保たれていることが確認できる。 の。 引に行われている。 痩・スランプ・空気量等が確認できる。 圧試験を実施していることが確認 でいる。 る。 一ル等からの漏水がない。 医工状況・充填度が適切である。	ర .	○評価とする	●判断基準 - 該当項目が90%以上・・・・ - 該当項目が80%以上90%未減 - 該当項目が70%以上80%未減 - 該当項目が60%以上70%未減 - 該当項目が60%以上70%未減 - 該当項目が60%未満・・・・	i · · · · · a' i · · · · · · b i · · · · · b'

考査項目別運用表

d 劣っている			
劣っている			
該当5項目以上・・・a			

(検査員)

3 出来外。 上水道工事	考査項[細別	а	a'	b	b'	С	d	е
(共連・制則	び出来え	映(開削+水	記入し、評価の対象とな ② 「レ」印を記入した項目 ③ 対象標に「レ」印のある ④ 評価値(%)=記 ⑤ なお、評価対象項目数が ⑥ また、文書による改善が	こらない場合は空欄とする。 間について該当する場合は「判定 5項目数を分母として比例計算の 5項目数を())/評価対象項 5項目以下の場合は。評価とす	: I 欄の口に「レ」印を記入する 値で評価する。 i 目数() る。	-		┃ ■ 値が不適切であったため、監 督員が文書で指示を行い改善	値が不適切であったため、検
	II. Ağ			シートにより適切に管理され、全紅切に施工され、そのことが容易に、 し口加工が適切に行われているこ 繋が適正に実施され、海水の無は 取が適切に実施され、海水の無は なが適切に実施されていることが確認できま 装の温度管理、密度試験等が適 設時に必要な供試体を採取し、強 事が、仕様書に基づき適切に施工 すけが適切に施工されている。 置・コンリート面のビッチング及びもいり 注意事項(水道工事標準仕様書) 破壊検査を適切に行い、欠陥が 書どおり施工され、品質管理資 を表する。	継手の写真が整っている。 工事写真から判断できる。 とが確認できる。 とが確認されている。 記に保たれていることが確認できる。 ののでは、 ののでは、 ができる。 が守られていることが確認できる。 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、	- る。 ごできる。 できる。	_ - C評価とする	- 該当項目が90%以上 - 該当項目が80%以上90%未減 - 該当項目が70%以上80%未減 - 該当項目が60%以上70%未減 - 該当項目が60%未満	ถึ∙・・・・a' ถึ∙・・・・b ถึ∙・・・・b' ・・・・・c

別紙3-4-32

考査項目別運用表

					(検査員)
考査項目	工種	a	b	c	d
有宜項日	上 悝	優れている	やや優れている	他の評価に該当しない	劣っている
3. 出来形及					
び出来映え	上小坦上尹 (刑刑)	●該当する項目の口に「レ」印を記入する。		●判断基準	
1 ~	+水管橋)	1 弁栓室等は適切に設置されており、内外の美観	も良い。	該当7項目以上・・・a	
Ⅲ. 出来映え		2 施工管理記録から、不可視部分の出来ばえの良	さがうかがえる。	該当5、6項目・・・・b	
		3 構造物のとおりが良く、クラック等がない。		該当4項目・・・・c	
	4 舗装の平坦性が良く、既設舗装及び鉄蓋・構造物とのすり付け状況が良い。			該当3項目以下・・・d	
		5 竣工図等が正確である。			
		6 全体的に美観が良い。			
		7表面に傷、錆、補修箇所が無く、溶接・塗装の	均一性が良い。		
		8 管のとおり及び付属品等の設置状況が良い。			

(検査員) 考査項目 細別 а' b b' С Ч | 品質関係の測定方法又は測定 | 値が不適切であったため、監 品質関係の測定方法又は測定 値が不適切であったため、検 3. 出来形及 管水路工事 び出来映 ① 評価対象項目が当該工事において評価の対象となる場合には「対象」欄の口に「レ」印を え 記入し、評価の対象とならない場合は空欄とする。 督員が文書で指示を行い改善 査員が修補指示を行った。 ② 「レ」印を記入した項目について該当する場合は「判定」欄の口に「レ」印を記入する。 された。 ③ 対象欄に「レ」印のある項目数を分母として比例計算の値で評価する。 ④ 評価値 (%) =該当項目数() /評価対象項目数() ⑤ なお、評価対象項目数が2項目以下の場合はc評価とする。 ⑥ また、文書による改善指示を行った場合には、上記評価によらず d、 e 評価とする。 Ⅱ. 品質 対象 判定 1 中心線の通りがよい。 2 締固めが適切に実施されている。 8 管の両側及び上面が均等に埋め戻されていることが確認できる。 4 地盤面、基礎面に不陸が生じていないことが確認できる。 5 管の吊り込み、据付の際に常に十分な注意を払っていることが確認できる。 6 コンクリート構造物に、きめ細かな施工がうかがえる。 ●判断基準 7 その他 (・該当項目が90%以上・・・・・・a ・該当項目が80%以上90%未満・・・・a 理由 ・該当項目が70%以上80%未満・・・・b 0% = 該当項目数 0 /評価対象項目数 0 評価対象項目数が2項目以下なのでC評価とする ・該当項目が60%以上70%未満・・・・b' ・該当項目が60%未満・・・・・・c

別紙3-4-33

考查項目別運用表

					(风盘矣)	
考査項目	工種	а	b	С	d	
万直坝口		優れている	やや優れている	他の評価に該当しない	劣っている	
3. 出来形及						
び出来映え	管水路工事	●該当する項目の□に「レ」印を記入する。		●判断基準		
~		1 管の通りが良い。		該当4項目以上・・・a		
Ⅲ.出来映え		2 付帯コンクリート構造物の肌が良い。		該当3項目・・・・b		
		3 付帯コンクリート構造物の通りが良い。		該当2項目・・・・c		
		4 付帯コンクリート構造物にクラックが無い。		該当1項目以下・・・d		
		5 全体的な美観が良い。				

(検査員)

考査項目	細別	а	a'	b	b'	С	d	е
3. 出来形及 び出来映 え	植栽工事	記入し、評価の対象とな ② 「レ」印を記入した項目 ③ 対象欄に「レ」印のある ④ 評価値(%)=該	において評価の対象となる場合 らない場合は空欄とする。 について該当する場合は「判定 項目数を分母として比例計算の 当項目数 () /評価対象項 2項目以下の場合は。評価とす	」欄の口に「レ」印を記入する 値で評価する。 目数()			品質関係の測定方法又は測定 値が不適切であったため、監 軽員が文書で指示を行い改善 された。	■ 品質関係の測定方法又は測定 ■ 値が不適切であったため、検 査員が修補指示を行った。
II. 品質		2 樹木などに損傷、 3 樹木等の生育に害 4 施工完了後、余乗 5 肥料が直接樹木の 6 植生する樹木に応 7 添木をぐらつきか	: う管理していることが確認できまちくずれ等が無いよう保護養のある害虫等がいないことが研 対なの剪定、整形その他必要な手根に触れないよう均一に施肥し にで、余裕のある植穴を堀り相 がないよう設置していることが がすい場所に据付けていることが 該当項目数 0 /評価	生を行っていることが確認でき 性認できる。 入れを行っていることが確認で していることが確認できる。 直穴底部を耕していることが確 性認できる。 が確認できる。	きる。	C評価とする	●判断基準 ・該当項目が90%以上・・・・ ・該当項目が80%以上90%未消・該当項目が70%以上80%未消・該当項目が60%以上70%未消・該当項目が60%未満・・・	請・・・・・a' 請・・・・・b 請・・・・・b'

別紙3-4-34

考査項目別運用表

					(队五矣)
考査項目	工種	а	b	С	d
万直项目		優れている	やや優れている	他の評価に該当しない	劣っている
3. 出来形及				•	
び出来映	植栽工事	●該当する項目の□に「レ」印を記入する。		●判断基準	
/-		1 樹木の活着状況が良い。		該当3項目以上・・・a	
Ⅲ. 出来映え		2 支柱の取り付けがきめ細かく施工されている。		該当2項目・・・・b	
		3 支柱の取り付けが堅固である。		該当1項目・・・・c	
		4 全体的な美観が良い。		該当O項目・・・・d	
		_			

(検査員)

考査項目	細別	а	a'	b	b'	С	d	е
3. 出来形及 び出来映 え	公園工事	記入し、評価の対象とな ② 「レ」印を記入した項目 ③ 対象欄に「レ」印のある ④ 評価値 %) = 数 ⑤ なお、評価対象項目数が また、文書による改善指	において評価の対象となる場合 らない場合は空欄とする。 について該当する場合は「判定 項目数を分母として比例計算の 当項目数() / 評価対象項 2項目以下の場合は。評価とす 示を行った場合には、上記評価	」欄の口に「レ」印を記入する 値で評価する。 目数 () る。			品質関係の測定方法又は測定 値が不適切であったため、監 軽員が文書で指示を行い改善 された。	品質関係の測定方法又は測定 値が不適切であったため、検 査員が修補指示を行った。
II. 品質		2 品質管理についる 3 設計図書(施工 4 使用材料の品) 5 遊戯施設等の4 倍 樹木等の品質 7 樹木の活着管 8 施工完了後、第 9 肥料が直接樹 10 植生する樹木 11 支柱材料及び1 11 支柱材料及び1 12 その他 (理	が整理されている。 いての工事写真が整理されている。 管理基準等)で定められている品質規格証明書が整備され、設計図書、規格可法が規格値以上とれてい理が適切に行われている。 に対技の剪定、整形その他必要なれの根に触れないよう均一に施肥に応じて、余裕のある植穴の掘り相取付け方法は設計図書の規定ど都取付け方法は設計図書の規定ど都	ででは、できる。 は、 できる。 は、 できる。 は、 できる。 は、 できる。 は、 できる。 は、 できる。 を、 できる。 を、 できる。 を、 できる。 できる。 できる。 できる。 できる。 できる。 できる。 できる。	ಕ ಿ	O I C I I C I I I I I I I I I I I I I I	●判断基準 ・該当項目が90%以上・・・・ 該当項目が80%以上90%未減 ・該当項目が70%以上80%未減 ・該当項目が60%以上70%未減 ・該当項目が60%未満・・・・	高・・・・a'高・・・・b'

別紙3-4-35

考査項目別運用表

					(1)(1)(1)		
考査項目	工種	а	b	С	d		
		優れている	やや優れている	他の評価に該当しない	劣っている		
3. 出来形及							
び出来映	公園工事	●該当する項目の□に「レ」印を記入する。		●判断基準			
1 ~		1 整地、均平の仕上げが良い。	該当5項目以上・・・a				
Ⅲ. 出来映え		2 施工箇所周辺との取合いが良い。		該当4項目・・・・b			
		3 遊具の設置状況が適切である。		該当3項目・・・・・c			
		4 樹木等に損傷がない。		該当2項目以下・・・d			
		5 支柱がきめ細かく施工され堅固である。					
		6 全体的な美観が良い。					

(検査員)

考査項目	細別	а	a'	b	b'	С	d	е
3. 出来形及 び出来映 え	公園工事	③ 対象欄に「レ」印のある。④ 評価値(%)=該⑤ なお、評価対象項目数が		」欄の口に「レ」印を記入する 値で評価する。 目数 () る。			品質関係の測定方法又は測定 値が不適切であったため、監 個が文書で指示を行い改善 された。	品質関係の測定方法又は測定 値が不適切であったため、検 査員が修補指示を行った。
Ⅱ. 品質		2 品質管理につし 3 設計図書(施工 4 使用材料の品質 5 遊戯施設等の材 コンクリート(6 アルカリ骨材) 7 コンクリート(3 圧縮強度試験) 9 コンクリート(4 10 雨水による崩り	反応抑制等)が確認できる。 受け入れ時に必要な試験を実施 に使用したコンクリート供試体	質管理が項目・頻度とも実施され書との適合性が確認できる。 この適合性が確認できる。 ており、コンクリートの品質(こしており、温度、スランプ、こいが、当該現場の供試体である。 度に達した後に型枠及び支保: 策を実施していることが確認	強度・w/c、最大骨材粒径、 空気量等の測定結果が確認でき ことが確認できる。 エの取り外しを行っていること できる。	న .	●判断基準 ・該当項目が90%以上・・・・ ・該当項目が80%以上90%未減 ・該当項目が70%以上80%未減 ・該当項目が60%以上70%未減 ・該当項目が60%未満・・・・	ที่ · · · · · a' ที่ · · · · · b ที่ · · · · · b'
Dilett o A O		_	:由: : 該当項目数 <mark>0</mark> /評価:	対象項目数 0 評価3	対象項目数が2項目以下なので	C評価とする		

別紙3-4-36

考査項目別運用表

					(KER)		
考査項目	工種	а	b	С	d		
	1 1±	優れている	やや優れている	他の評価に該当しない	劣っている		
3. 出来形及							
び出来映え	公園工事	●該当する項目の□に「レ」印を記入する。		●判断基準			
1		1 クラックが無い。		該当5項目以上・・・a			
Ⅲ. 出来映え		2 施工箇所周辺との取合いが良い。		該当4項目・・・・b			
		3 遊具の設置状況が適切である。		該当3項目・・・・c			
		4 隣接構造物・地山等との取付け・すり合せがよい。		該当2項目以下・・・d			
		5 構造物の仕上りは、使用目的・使用者の安全に配	慮されている。				
		6 全体的な美観が良い。					

 c
 d
 e

 品質関係の測定方法又は測定
 品質関係の測定方法又は測定

与 直 項 日	神田カリ	а	a	l n	ь	C	u	e e
3. 出来形及 び出来映 え	電線共同溝工事(管路布設段階)	記入し、評価の対象と ② 「レ」印を記入した項 ③ 対象欄に「レ」印のあ ④ 評価値 (%)= ⑤ なお、評価対象項目数	ならない場合は空欄とする。	項目数()がする。			品質関係の測定方法又は測定 値が不適切であったため、監 軽員が文書で指示を行い改善 された。	
II. 品質		2 床付け面の目 3 管路の形状及 4 管路(上記以 5 管路の導通試 6 その他	朴)の品質が、向上管理資料より的 験を実施しているか確認できる。 単由:	を こ実施されていることが資料により確に確認できる。	より確認できる。 対象項目数が2項目以下なので	C評価とする	●判断基準 ・該当項目が90%以上・・・・ ・該当項目が80%以上90%未清 ・該当項目が70%以上70%未清 ・該当項目が60%未満・・・・	請・・・・・ a ' 請・・・・ b 請・・・・ b '

別紙3-4-37

考査項目別運用表

考査項目	工種	a	b	С	d
万里坝日		優れている	やや優れている	他の評価に該当しない	劣っている
3. 出来形及 び出来映 え 皿. 出来映え				他の評価に該当しない ●判断基準 該当4項目以上・・・ a 該当3項目・・・・ b 該当2項目・・・・ c 該当1項目以下・・・ d	劣っている

(検査員)

	考査項目	細別	а	a'	b	b'	С	d	е
1 指定材料の規格が、品質を証明する書類で確認できる。 2 管路の通過試験を行っており、試験結果から全箇所が導通していることが確認できる。 3 ブラント出荷時、現場到着時、舗設時等において、アスファルト混合物の温度管理が記録していることが確認できる。 4 特殊部の施工基面の支持力が、均等となるようにかつ不陸が無いように仕上げていることが確認できる。 5 特殊部等の施工において、隣接する各ブロックに目違いによる段差及び蛇行等が無いよう敷設していることが確認できる。 6 埋戻しにおいて、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。 7 舗装の復旧等が適時行われ、路面の沈下や不陸が無く平坦性を確保していることが確認できる。 9 管設置において、それぞれの管の最小曲げ半径を満足していることが確認できる。 9 管設置において、それぞれの管の最小曲げ半径を満足していることが確認できる。 0 その他	び出来映	電線共同溝工事	記入し、評価の対象とな ② 「レ」印を記入した項目 ③ 対象欄に「レ」印のある ④ 評価値(%)=該 ⑤ なお、評価対象項目数が	らない場合は空欄とする。 について該当する場合は「判定 項目数を分母として比例計算の 当項目数()/評価対象項 2項目以下の場合は。評価とす	値が不適切であったため、監督員が文書で指示を行い改善	品質関係の測定方法又は測定 値が不適切であったため、検 査員が修補指示を行った。			
	I. 品質		1 指定材料の規格か 2 管路の通過試験を 3 プラント出荷時、 きる。 4 特殊部の施工基面 5 特殊部多る。 6 埋戻しにおいて、 7 舗装の復旧等が追 8 管枕及び埋設シー 9 管設置において、 0 その他 (理由	行っており、試験結果から全態 現場到着時、舗設時等において 「の支持力が、均等となるように おいて、隣接する各ブロックに 設計図書の仕様を満足している 5時行われ、路面の沈下や不陸が トの設置及び土被りが、設計し それぞれの管の最小曲げ半径を	所が導通していることが確認 こ、アスファルト混合物の温度 こかつ不陸が無いように仕上げ 三目違いによる段差及び蛇行等 ことが確認できる。 が無く平坦性を確保していること 引力では、 できる。 が無く平均性を確保していることが確認でき に満足していることが確認でき	管理が記録していることが確認できる。 ていることが確認できる。 が無いよう敷設していることが とが確認できる。 が確認できる。 る。	確	- 該当項目が90%以上 - 該当項目が80%以上90%未清 - 該当項目が70%以上80%未清 - 該当項目が60%以上70%未清 - 該当項目が60%未満	請・・・・・a' 萄・・・・・b 萄・・・・・b' ・・・・・c

別紙3-4-38

考査項目別運用表

					(快宜貝)
考査項目	工種	а	b	c	d
方宜坝日	上 俚	優れている	やや優れている	他の評価に該当しない	劣っている
3 出来形及		●該当する項目の口に「レ」印を記入する。	が適切で、有害な段差が無く平坦性が確保されている。 な隙間が生じていない。	他の評価に該当しない ●判断基準 該当3項目以上・・・ a 該当2項目・・・・ b 該当1項目・・・・ c 該当0項目・・・・ d	劣っている

(検査員)

考査項目	細別	а	a'	b	b'	С	d	е
3. 出来形及 び出来映 え	取壊し工事	記入し、評価の対象とな ② 「レ」印を記入した項目 ③ 対象欄に「レ」印のある ④ 評価値 (%) = 割 ⑤ なお、評価対象項目数か	らない場合は空欄とする。				品質関係の測定方法又は測定 値が不適切であったため、監 質が文書で指示を行い改善 された。	品質関係の測定方法又は測定 値が不適切であったため、検 査員が修補指示を行った。
I. 品質		2 施工計画書に気 3 廃棄物の処理が 4 請負者の管理部 5 不可視部分の項 6 周辺環境(騒音 7 仕様書等で定め	を適切に実施していることが確認をとめられた計画により管理されているのであることが確認できる。 のは外を構されている。 ではいるである。 ・振動・地盤変動等)に配慮したが かられている品質管理が実施され	を工方法で実施している。 ている。 ●判断基準 ・該当項目が90%以 ・該当項目が80%以 ・該当項目が70%以 ・該当項目が60%以 ・該当項目が60%よ	上・・・・・a 上90%未満・・・a 上90%未満・・・b 上70%未満・・・b 満・・・・c			
B144 - @ 00								

別紙3-4-39

考査項目別運用表

	I		, , , , , , , , , , , , , , , , , , ,					
考査項目	エ 種	а	b	С	d			
		優れている	やや優れている	他の評価に該当しない	劣っている			
3. 出来形及								
ひ出来映	取壊し工事	●該当する項目の□に「レ」印を記入する。		●判断基準				
"		1 きめ細やかな施工がされている。		該当3項目以上・・・a				
Ⅲ. 出来映え		2 既存部分や関連設備との調整がなされている。		該当2項目・・・・b				
		3 取壊し後の整地等仕上がりの状態が良好である	0	該当1項目・・・・・c				
		4 取壊し対象(リサイクル材、産業廃棄物等)の散	乱等がなく処理が適切である。	該当0項目・・・・d				

(検査員)

考査項目	細別	а	a'	b	b'	С	d	е
	機械設備工事(土木)	2 施工の各段階における 3 機材の品質確認記録 4 品質の確認結果が、 5 施工の品質が、適切 6 施工の品質が、減験 7 システムの性能及び 8 システムの性能及び 9 不可視部分となる品 10 中間検査や既成部分 11 運転・点検上の表示 12 その他	図等により確認でき、設計図書を決る完了時の試験及び記録の方法、 なの内容が、適切であることが確認 分りやすく整理されていることが確 であり、設計図書を満足しているこ や検査等の結果の記録により、優 機能に関する試運転の確認方法が 機能に関する試運転の確認方法が 機能に関する試運転の確認方法が 機能に関する試運転の確認方法が 機能に関する試運転の確認方法が 機能に関する試運転の確認方法が 機能に関する試運転の確認方法が 機能に関する試運転の確認方法が 機能に関する試運転の確認方法が 機能に関する試運転の確認方法が の表示等が明確	が、適切であることが確認できる。 できる。 「認できる。 とが確認できる。 れていることが確認できる。 が適切であり、記録の内容が設計区 こ工夫がある。 権認できる。 質が、継続して確認できる。 なで解りやすい。	書を満足していることが確認できる	●判断者 · 該当 · 該当 · 該当 · 該当 · 該当	温質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、監督員が文書で指示を行い改善された。 準項目が90%以上・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	田具関係の測定力流気は測定値が不適切であったため、 検査員が修補指示を行った。

別紙3-40-40

考査項目別運用表

					()/11/2/
考査項目	工種	а	b	С	d
7 且 次 口		優れている	やや優れている	他の評価に該当しない	劣っている
3. 出来形及 び出来映 え 皿. 出来映え	機械設備工事(土木)	でれている ●該当する項目の口に「レ」印を記入する。 1 きめ細かな施工がなされている。 2 関連工事(工種)又は既存部分との調整がなされ 3 機器又はシステムとして、運転状態が正常であり 4 環境負荷低減への対策が優れている。 5 運転操作及び保守点検等の容易さを確保するため	、調和が良い仕上がりである。 、性能が優れている。	●判断基準 該当4項目以上・・・a 該当3項目・・・・b 該当2項目・・・・c 該当1項目以下・・・d	劣 つ(いる

(検査員)

考査項目	細別	а	a '	b	b'	С	d	е
3. 出来出来 出来出来 出来出来 出土 質	電気設備工事(土木)	2 施工の各段階における 3 機材の品質確認記針 4 品質の確認結果が、 5 施工の品質が、適切 6 施工の品質が、試験 7 システムの性能及び 8 システムの性能及び 9 不可視部分となる品 10 中間検査や既成部分 11 運転・点検上の表示 12 その他	図等により確認でき、設計図書を減る完了時の試験及び記録の方法。 なの内容が、適切であることが確認 分りやすく整理されていることが確 であり、設計図書を満足しているこ や検査等の結果の記録により、優 機能に関する試運転の確認方法が 機能に関する試運転の確認方法が 機能に関する試運転の確認方法が 機能に関する試運転の確認方法が の表示等が明確 及び危険箇所などの表示等が明確	が、適切であることが確認できる。 できる。 ・認できる。 ・とが確認できる。 れていることが確認できる。 が適切であり、記録の内容が設計図 こ工夫がある。 産認できる。 質が、継続して確認できる。	書を満足していることが確認できる		●判断基準 ・該当項目が90%以上・・・・・ ・該当項目が80%以上90%未満・・ ・該当項目が10%以上80%未満・・ ・該当項目が10%以上80%未満・・ ・該当項目が10%以上70%未満・・ ・該当項目が60%以上70%未満・・ ・該当項目が60%以上70%未満・・ ・該当項目が60%以上70%未満・・ ・該当項目が60%以上70%未満・・	· · · · a' · · · · b · · · · b' · · · · c

別紙3-4-41

考査項目別運用表

					(人五久/
考査項目	工種	а	b	С	d
7 且 次 口	土 1里	優れている	やや優れている	他の評価に該当しない	劣っている
3. 出来形及 び出来映 え 皿. 出来映え	電気設備工事(土木)	●該当する項目の□に「レ」印を記入する。	、性能が優れている。	●判断基準 該当4項目以上・・・a 該当3項目・・・・ b 該当2項目・・・・ c 該当1項目以下・・・ d	

(検査員) 考查項目 細別 h С 品質関係の測定方法又は測定 値が不適切であったため、監 督員が文書で指示を行い改善 -- 品質関係の測定方法又は測定 - 値が不適切であったため、検 3. 出来形及 砂防構造物工 評価対象項目が当該工事において評価の対象となる場合には「対象」欄の口に「レ」印を 記入し、評価の対象とならない場合は空欄とする。 び出来映 査員が修補指示を行った。 及び地すべり ② 「レ」印を記入した項目について該当する場合は「判定」欄の口に「レ」印を記入する。 された。 防止工事(集 ③ 対象欄に「レ」印のある項目数を分母として比例計算の値で評価する。 水井工事を含 %)=該当項目数()/評価対象項目数() ④ 評価値(⑤ なお、評価対象項目数が2項目以下の場合はc評価とする。 ⑥ また、文書による改善指示を行った場合には、上記評価によらず d、 e 評価とする。 Ⅱ. 品質 【共通】 | | | 1 コンクリートの配合試験及び試験練りを行っており、コンクリートの品質(強度・w/c、最大骨材粒径、塩化物総量、単位水量、アルカ リ骨材反応抑制等)が確認できる。 2 コンクリート受け入れ時に必要な試験を実施しており、温度、スランプ、空気量等の測定結果が確認できる。 3 圧縮強度試験に使用したコンクリート供試体が、当該現場の供試体であることが確認できる。 4 運搬時間、打設時の投入高さ、締固時のパイプレータの機種及び養生方法が、施工条件及び気象条件に適しており、定められた条件を満足していることが確認できる。 (寒中及び暑中コンクリート等を含む) 5 コンクリートの圧縮強度を管理し、必要な強度に達した後に型枠及び支保工の取り外しを行っていることが確認できる。 6 地山との取り合わせを適切に行っていることが確認できる。 7 鉄筋及び鋼材の品質が、証明書類で確認できる。 8 有害なクラックが無い。 9 その他 理由 0% = 該当項目数 0 /評価対象項目数 0 評価対象項目数が2項目以下なのでC評価とする 1 コンクリート打設まで錆、泥、油等の有害物が、鉄筋に付着しないよう管理していることが確認できる。 2 鉄筋の組立及び加工が、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。 3 施工基面を平滑に仕上げていることが確認できる。 ●判断基準 4 アンカーの施工が、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。 ・該当項目が90%以上・・・・・・a 5 ボルトの締付確認が実施され、記録を保管していることが確認できる。 ・該当項目が80%以上90%未満・・・・・ a 6 ボルトの締付機及び測定機器のキャリブレーションを実施していることが確認できる。 ・該当項目が70%以上80%未満・・・・b ・該当項目が60%以上70%未満・・・・b 7 その他 該当項目が60%未満・・・・・・c ※評価対象項目数が2項目以下の場合はc評価とする。 評価値 0% = 該当項目数 0 /評価対象項目数 0 評価対象項目数が2項目以下なのでC評価とする 【地すべり対策工事(抑止杭・集水井戸工事を含む)】 1 アンカーの施工が、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。 2 ライナープレートの組み立てにあたり、偏心と歪みに配慮して施工していることが確認できる。 3 ライナープレートと地山との隙間が少なくなるように施工していることが確認できる。 4 集・排水ボーリングエの方向及び角度が、適正となるように施工上の配慮をしていることが確認できる。 5 その他 評価値 0% = 該当項目数 0 /評価対象項目数 0 評価対象項目数が2項目以下なのでC評価とする 評価値 0% = 該当項目数 0 /評価対象項目数 0

別紙3-42-42

考查項目別運用表

					(灰丘貝/	
考査項目	工種	а	b	С	d	
与且项目	工性	優れている	やや優れている	他の評価に該当しない	劣っている	
3. 出来形及						
り出来映	地すべり防止工事	●該当する項目の□に「レ」印を記入する。		●判断基準		
~		1 地山との取り合いが良い。		該当3項目以上・・・a		
皿. 出来映え		2 天端、端部の仕上げが良い。		該当2項目・・・・b		
		3 施工管理記録などから不可視部分の出来ばえ	の良さが伺える。	該当1項目・・・・c		
		4 全体的な美観が良い。		該当0項目・・・・d		

(숻杏昌)

***	Am Dul				.,			(検査員)
考査項目 3. 出来形及	細別 法面工事	a	a'	b	b'	C	d 品質関係の測定方法又は測定	e 品質関係の測定方法又は測定
3. 田木形及び出来映え	法 囬工争	記入し、評価の対象と (2) 「レ」印を記入した功 (3) 対象欄に「レ」印の名 (4) 評価値 (%) = (5) なお、評価対象項目数	こならない場合は空欄とする。 項目について該当する場合は 5る項目数を分母として比例 =該当項目数()/評価: 対が2項目以下の場合は c 評	「判定」欄の□に「レ」印を記え 計算の値で評価する。 対象項目数 ()	くする。		面質関係の測定力法又は測定 値が不適切であったため、整 替員が文書で指示を行い改善 された。	回見関係の刷た月本スとは 値が不適切であったため、検 査員が修補指示を行った。
II. 品質		施工に際して、品 盛土の施工にあた	仕上げていることが確認でき 質に害となる施工面の浮きそ り、法面の崩壊が起こらない 起こらないように、排水対策 由:					
		評価値 0% =	該当項目数 0 /評	面対象項目数 0 評価	対象項目数が2項目以下なので	C評価とする		
		ネットなどが対のがののでは、	施工に反映していることが研究を生じていないことが を生じていないことが確認できる。 類、品質、配合等が認計図書 おいるでは、 動き、 が構造できる。 類、品質人が配合が認計図書 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、	「確認できる。 きる。 の仕様を満足していることが確認できる。 一面対象項目数 0 評価 一直の仕様を満足していることが ことが確認できる。 から施工していることが確認できる。	対象項目数が2項目以下なので 確認できる。 きる。 とが確認できる。	_ - C評価とする		
		【現場打法枠工関係(プレキャ 使用する材料の種 アンカーを設計図 現場養生が、設計 強度試験に使用し 枠内に空隙が無い 層間にはく離が無 不良箇所が生じな その他	該当項目数 0	書の仕様を満足していることが	ే .	○ ○評価とする	●判断基準 - 該当項目が80%以上・・・ - 該当項目が80%以上90%未満 - 該当項目が70%以上80%未満 - 該当項目が60%以上70%未減 - 該当項目が60%以上70%未減 - 該当項目が60%以	i · · · · · · a' i · · · · · · b i · · · · · · b'
			該当項目数 0 /評	西対象項目数 0 評価 西対象項目数 0	対象項目数が2項目以下なので	- ノ C評価とする		
別紙3-43-43				北 木:	5日则:雷田主			

考査項目別運用表

					(快宜貝)
考査項目	工 種	a	b	c	d
		優れている	やや優れている 他の評価に該当しない		劣っている
3. 出来形及 び出来映					
五 出来映え	法面工事	●該当する項目の□に「レ」印を記入する。1 通りが良い。2 植生、吹付等の状態が均一である。3 端部処理が良い。4 全体的な美観が良い。		●判断基準 該当3項目以上・・・a 該当2項目・・・・b 該当1項目・・・・c 該当0項目・・・・d	

(検査員)

考査項目	細別	а	a	b	b'	С	d	е
3. 出来形及び出来映え	塗装工事	記入し、評価の対象となっ ② 「レ」印を記入した項目! ③ 対象欄に「レ」印のある引 ④ 評価値(%)=該 ⑤ なお、評価対象項目数が	こおいて評価の対象となる場合 おいは関係は空欄とする。 こついて該当する場合は「判定 頁目数を分母として比例計算の 当項目数()/評価対象項 2項目以下の場合は。評価とす 示を行った場合には、上記評価	A質関係の測定方法又は測定 値が不適切であったため、監 軽員が文書で指示を行い改善 された。	品質関係の測定方法又は測定 値が不適切であったため、検 査員が修補指示を行った。			
II. 品質		2 ケレンを入念に実 3 天候状況の確認、 4 塗料を使用前に損 5 鋼材表面及び被塗 6 塗料の空缶管理に 7 塗り残し、ながれ 8 溶接部、ボルトの		を装作業を行っていることが確認にしてから使用していることが確認できる。 ことが確認できる。 ことが確認できる。 ことが確認できる。 こついて、必要な塗膜厚を確保 とは年月日、ロット番号、色彩	認できる。 が確認できる。 きる。 していることが確認できる。	C評価とする	●判断基準 ・該当項目が90%以上・・・・ ・該当項目が80%以上90%未済 ・該当項目が70%以上80%未済 ・該当項目が60%以上70%未済 ・該当項目が60%以上70%未済 ・該当項目が60%未満・・・・	ち・・・・a' ち・・・・b ち・・・・b'

別紙3-4-44

考査項目別運用表

					(代旦貝/
考査項目	工種	а	b	С	d
		優れている	やや優れている	他の評価に該当しない	劣っている
3. 出来形及 び出来映 え Ⅲ. 出来映え		優れている ●該当する項目の□に「レ」印を記入する。 1 塗装の均一性が良い。 2 細部まできめ細かな施工がされている。 3 補修箇所が無い。 4 ケレンの施工状況が良好である。 5 全体的な美観が良い。	やや優れている	他の評価に該当しない ●判断基準 該当4項目以上・・・ a 該当3項目・・・・ b 該当2項目・・・・ c 該当1項目以下・・・ d	劣っている

(検査員)

考査項目	細別	а	a '	b	b'	С	d	е
3. 出来形及 び出来映 え	トンネル工事	記入し、評価の対象となら ② 「レ」印を記入した項目に ③ 対象欄に「レ」印のある項 ④ 評価値(%)=該当	ない場合は空欄とする。 こついて該当する場合は「判定」 見目数を分母として比例計算の値 項目数 () /評価対象項目 項目以下の場合は c 評価とする	目数() る。			品質関係の測定方法又は測定 値が不適切であったため、監 個が大書で指示を行い改善 された。	品質関係の測定方法又は測定 値が不適切であったため、検 査員が修補指示を行った。
Ⅱ. 品質		リーマック リー・アン・アン リー・アン・アン リー・アン・アン・アン リー・アン・	計が確認できる。 け入れ時に必要な試験を実施した 使用したコンクリートの供試体 を件に適した運搬時間、打設方種 いの配合及びロックボルトの種が いた岩区分(支保エパターとで について、設計図書の仕様を でつており、その結果に基づ施工とがの施工しているるよとがに、で が正工にあたってとがは、吹作窓でできる。 を打継ぎする場合は、「中で満ったを使、まする場合は、「ロックでできる。 いて、側壁コンクリートとアージをいて、側壁コンクリートとアージをいて、側壁コンクリートとアージをできる。	除いた後に、吹付コンクリートのる。 了面を清掃した上、湿潤状態でが 足していることが確認できる。 ボルト等の突起物にモルタルや6 ーチコンクリートの打継目が同一	量等の測定結果が確認できる。とが確認できる。とが確認できる。 条件を満足していることが確認できる。 情足していることが確認できる。 できる。 一層の厚さが15cm以下で地 を工していることが確認できる。	2できる。 。 也 。 て 確認できる。	●判断基準 ・該当項目が90%以上・・・・ ・該当項目が80%以上90%未減 ・該当項目が70%以上80%未減 ・該当項目が60%以上70%未減 ・該当項目が60%未満・・・・ ※評価対象項目数が2項目以T	請・・・・・a' 高・・・・・b 高・・・・・b' ・・・・・c
Dil 45 a 45								

別紙3-45-45

考查項目別運用表

考査項目	工種	а	b	С	d
万里坝口	工 作里	優れている	やや優れている	他の評価に該当しない	劣っている
3. 出来形及 び出来映	トンネル工事	**************************************		and her the late	
え		●該当する項目の□に「レ」印を記入する。│ 1 コンクリート構造物の表面状態が良い。		●判断基準 該当5項目以上・・・a	
Ⅲ. 出来映え		2 コンクリート構造物の通りが良い。 3 天端及び端部の仕上げが良い。		該当4項目・・・・b 該当3項目・・・・c	
		4 支承部の仕上げが良い。 5 クラックが無い。		該当2項目以下・・・d	
		6 全体的な美観が良い。			

考査項目 細別 b b' С d ┃ 品質関係の測定方法又は測定 値が不適切であったため、監 品質関係の測定方法又は測定 3. 出来形及 ほ場整備工事 評価対象項目が当該工事において評価の対象となる場合には「対象」欄の口に「レ」印を 値が不適切であったため、検 び出来映 記入し、評価の対象とならない場合は空欄とする。 督員が文書で指示を行い改善 査員が修補指示を行った。 え 「レ」印を記入した項目について該当する場合は「判定」欄の口に「レ」印を記入する。 された。 ③ 対象欄に「レ」印のある項目数を分母として比例計算の値で評価する。 評価値 (%)=該当項目数 ()/評価対象項目数 () ⑤ なお、評価対象項目数が2項目以下の場合はc評価とする。 ⑥ また、文書による改善指示を行った場合には、上記評価によらず d、 e 評価とする。 Ⅱ. 品質 ┃ ┃ 1 地区内の地表水及び地下水を排除しドライの状態で施工をしている。 ⅰ2 濁り等の防止に十分留意して施工している。 3 石礫、根株等が混入しないように適切に施工している。 4 表土剥ぎ取り、基盤切盛、畦畔築立、基盤整地、表土整地、道路盛土等、適切に施工している。 5 進入路について耕作に支障がないように施工されている。 6 用・排水路の縦断勾配等については、ほ場面標高等を考慮して施工されている。 |7 用・排水路の施工基面が平滑に仕上げられている。 8 用・排水路の法面のとおりがよい。 9 構造物側面の埋め戻しについて、適切に実施されている。 0 護岸等の根入れが図面どおり実施されていることが確認できる。 ●判断基準 ・該当項目が90%以上・・・・・・a 1 二次製品との取り付け部コンクリート構造物にきめ細かな施工がうかがえる。 ・該当項目が80%以上90%未満・・・・a 2 二次製品の吊り込み、据付けの際に常に十分な注意を払っていることが確認できる。 ・該当項目が70%以上80%未満・・・・b 3 パイプラインの地盤面、基礎面に不陸が生じていないことが確認できる。 ・該当項目が60%以上70%未満・・・・b' 4 パイプラインが所定の埋設深さに布設されており、適切な締固めを実施していることが確認できる。 ・該当項目が60%未満・・・・・・c 5 暗渠排水の施工にあたり、表土と基盤土の混合を防止していることが確認できる。 6 暗渠排水の被覆材の厚さを確保し、かつ管体を十分被覆していることが確認できる。 | 7 暗渠排水管が所定の深さ及び勾配で布設されていることが確認できる。 8 その他 0% = 該当項目数 0 /評価対象項目数 0 評価値 評価対象項目数が2項目以下なのでC評価とする

別紙3-46-46

考査項目別運用表

(検査員)

(检杏昌)

考査項目	工種	а	b	С	d
与 直项日	上 俚	優れている	やや優れている	他の評価に該当しない	劣っている
3. 出来形及					
び出来映え	(暗渠排水工事のみ行う場合を	●該当する項目の□に「レ」印を記入する。 1 均平度が良い。 2 土工の仕上げが良い。 3 土工の通りが良い。 4 土工の構造物等のすりつけが良い。 5 用、排水路のとおりが良い。 6 コンクリート構造物のとおりが良い。 7 全体的な美観が良い。		●判断基準 該当6項目以上・・・a 該当4、5項目・・・b 該当3項目・・・・・c 該当2項目以下・・・d	
	ほ場整備工事 (暗渠排水工事 のみ行う場合)	●該当する項目の口に「レ」印を記入する。 吐き出し部が入念に施工されている。 付帯明渠等の仕上げ、通りが良い。 埋め戻しが入念に施工され、凹凸がなく仕上げが良 施工管理記録簿等から不可視部分の出来ばえが高く		●判断基準 該当3項目以上・・・a 該当2項目・・・・・b 該当1項目・・・・・c 該当0項目・・・・・d	

								(検査員)
考査項目	細別	а	a'	b	b'	С	d	е
3. 出来形及 び出来映 ええⅢ. 品質	は場整備工事 (暗渠排水工 事のみ行う場 合)	記入し、評価の対象とな 「レ」即部記入した項目 ③ 対象欄に「レ」印のある。 ④ 評価値(%) ⇒該 5 なお、評価対象項目数が また、文書による改善指: 対象 判定	こついて該当する場合は「判定」 頁目数を分母として比例計算の値 当項目数() /評価対象項目 2項目以下の場合は。評価とする 示を行った場合には、上記評価に	欄の口に「レ」印を記入する。 で評価する。 数 () 。 。 よらず d 、 e 評価とする。			■	品質関係の測定方法又は測定 値が不適切であったため、検 査員が修補指示を行った。
		2 濁り等の防止に十 3 石礫、根株等が消 4 表土剥ぎ取り、基 5 進入路について射 6 用・排水路の縦断	び地下水を排除しドライの状態 分留意して施工している。 込しないように適切に施工して、 盤切盛、畦畔築立、基盤整地、表 作作に支障がないように施工され 均配等については、ほ場面標高 基面が平滑に仕上げられている。 「のとおりがよい。	いる。 土整地、道路盛土等、適切に施 ている。 寿を考慮して施工されている。	エしている 。		●判断基準 ・該当項目が90%以上・・・・ ・該当項目が80%以上90%未満	
		0 護岸等の根入れか 1 二次製品との取り 2 二次製品の吊り記 3 パイブラインの地 4 パイプラインが所 5 暗渠排水の施工に 5 暗渠排水の施工に	展しについて、適切に実施され 図面どおり実施されていること: 付け部コンクリート構造物にき み、据付けの際に常に十分な注 ・・ ・・ ・・ ・・ ・・ ・・ ・・ ・・ ・・ ・	が確認できる。 が細かな施工がうかがえる。 意を払っていることが確認できないことが確認できる。 適切な締固めを実施している。 近切な締固めを実施している。	ことが確認できる。 ·		·該当項目が70%以上80%未満 ·該当項目が60%以上70%未満 ·該当項目が60%未満 · · · · ※評価対象項目数が2項目以下	รู้ b รู b' c
			の深さ及び勾配で布設されてい :	ることが確認できる。	る。 	○評価とする		

別紙3-4-47

考査項目別運用表

					(1大旦貝/	
考査項目	工種	a	b	С	d	
		優れている	やや優れている	他の評価に該当しない	劣っている	
3. 出来形及	ほ場整備工事 (暗渠排水工事の					
な山木吹	ほ場整備工事	●該当する項目の□に「レ」印を記入する。		●判断基準		
	(暗渠排水工事のみ行う場合)	1 吐き出し部が入念に施工されている。	該当3項目以上・・・a			
Ⅲ. 出来映え	の1] フ-塚ロ/	2 付帯明渠等の仕上げ、通りが良い。		該当2項目・・・・b		
		3 埋め戻しが入念に施工され、凹凸がなく仕上に	ずが良い。	該当1項目・・・・・c		
		4 施工管理記録簿等から不可視部分の出来ばえた	が高く評価できる。	該当0項目・・・・・d		

(検査員)

考査項目	細別	a	a'	b	b'	С	d	е
3. 出来形及 び出来映 え	ため池工事	記入し、評価の対象とな ② 「レ」印を記入した項目 ③ 対象欄に「レ」印のある ④ 評価値(%)=割 ⑤ なお、評価対象項目数か	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	2」欄の口に「レ」印を記入する 値で評価する。 種数 () - る。			□ 品質関係の測定方法又は測定 値が不適切であったため、監 督員が文書で指示を行い改善 された。	□ 品質関係の測定方法又は測定 値が不適切であったため、検 査員が修補指示を行った。
II. 品質		2 刃金土や堤体の新 3 グラウトエが適切 4 施工基面及び法面 5 排水対策を行い、	た施工が確認できる。 手部、かぶりは工事図書等に基 試体が当該現場のものであるこ	きる。 づき適切に施工している。 とが確認できる。	対象項目数が2項目以下なので	C評価とする	●判断基準 ・該当項目が90%以上・・・・ ・該当項目が80%以上90%未注 ・該当項目が70%以上80%未注 ・該当項目が60%以上70%未注 ・該当項目が60%未満・・ ※評価対象項目数が2項目以下	ร็ · · · · · a ' ร็ · · · · · b ร็ · · · · · b ' · · · · · c

別紙3-4-48

考査項目別運用表

考査項目	工種	а	b	С	d
つ直切口		優れている	やや優れている	他の評価に該当しない	劣っている
3. 出来形及び出来映え 出来映え	ため池工事	●該当する項目の□に「レ」印を記入する。 1 ±工の仕上げが良い。 2 ±工の通りが良い。 3 ±工の構造物等へのすりつけが良い。 4 吹付(植生、コンクリート等)の状態が均一 5 コンクリート構造物の肌が良い。 6 コンクリート構造物の通りが良い。 7 天端仕上げ、端部仕上げ等が良い。 8 付帯コンクリート構造物にクラックが無い。 9 漏水が無い。 10 施設の通りが良い。 (排水側溝、フェンス等) 11 全体的な美観が良い。		●判断基準 該当9項目以上・・・a 該当7、8項目・・・・b 該当6項目・・・・c 該当5項目以下・・・d	

(検査員) 考查項目 細別 b С 品質関係の測定方法又は測定 品質関係の測定方法又は測定 3. 出来形及 治山工事 評価対象項目が当該工事において評価の対象となる場合には「対象」欄の口に「レ」印を 値が不適切であったため、監 び出来映 値が不適切であったため、検 記入し、評価の対象とならない場合は空欄とする。 「レ」印を記入した項目について該当する場合は「判定」欄の口に「レ」印を記入する。 督員が文書で指示を行い改善 査員が修補指示を行った。 対象欄に「レ」印のある項目数を分母として比例計算の値で評価する。 ⑥ また、文書による改善指示を行った場合には、上記評価によらず d、 e 評価とする。 Ⅱ. 品質 | | | | | コンクリートの配合試験及び試験練りを行っており、コンクリートの品質(強度・w/c、最大骨材粒径、塩化物総量、単位水量、アルカリ骨材反応抑制等)が確認できる。 2 コンクリート受け入れ時に必要な試験を実施しており、温度・スランプ・空気量等の測定結果が確認できる。 3 圧縮強度試験に使用したコンクリート供試体が、当該現場の供試体であることが確認できる。 4 運搬時間、打設時の投入高さ、締固め時のバイブレーターの機種及び養生方法が、施工条件及び気象条件に適しており、定められた条件 を満たしていることが確認できる。 (寒中及び暑中コンクリート等を含む) 5 コンクリートの圧縮強度を管理し、必要な強度に達した後に型枠及び支保工の取り外しを行っていることが確認できる。 6 コンクリートの打設前に、打継ぎ目処理を適切に行っていることが確認できる。 7 施工基面を平滑に仕上げていることが確認できる。 8 裏込材及び胴込めコンクリートの締固めを空隙が生じないよう十分に行っていることが確認できる。 ■ 1 護岸工の端部や曲線部の処理が適切であり、強度及び水密性を確保していることが確認できる。 1 植生工で、植生の種類、品質、配合及び養生が、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。 2 吹付工の吹付け厚さが均等であることが確認できる。 3 吹付工の金網の重ね幅が、10cm以上確保されていることが確認できる。 4 吹付工に使用する材料の種類、品質及び配合が、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。 ●判断某准 刊断조平 ・該当項目が90%以上・・・・・・a ■5 吹付工の圧縮強度試験に使用したコンクリートの供試体が当該現場の供試体であることが確認できる。 ・該当項目が80%以上90%未満・・・・a' 6 法枠工のアンカーを設計図書どおりの長さで施工していることが確認できる。 該当項目が70%以上80%未満・・・・b 7 法枠工の現場養生が設計図書の仕様を満足するように実施されていることが確認できる。 該当項目が60%以上70%未満・・・・・b' 8 法枠工に使用する材料の種類、品質及び配合が、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。 ・該当項目が60%未満・・・・・・c 9 法枠工の圧縮強度試験に使用したコンクリートの供試体が当該現場の供試体であることが確認できる。 20 鋼材の品質が、証明書類で確認できる。 № 1 ボルトの締付確認が実施され、記録を保管していることが確認できる。 P2 ボルトの締付機及び測定機器のキャリブレーションを実施していることが確認できる。 23 伐開・除根作業により発生した伐開木、根株、枝条等が適切に処理されている。 24 掘削等により、立木等に損傷を与えず、また飛散の防止等にも注意を払って施工されている。 25 構造物や法面に有害なクラックがない。 26 その他 評価値 0% = 該当項目数 0 /評価対象項目数 0 評価対象項目数が2項目以下なのでC評価とする

別紙3-4-49

考查項目別運用表

(検査員) 考査項目 工 種 他の評価に該当しない 優れている やや優れている 劣っている 3. 出来形及 び出来映 治山工事 ●該当する項目の□に「レ」印を記入する。 ●判断基準 1 構造物の表面状態が良い。 該当5項目以上・・・a Ⅲ. 出来映え 2 構造物の天端仕上げ、端部仕上げ等がよ良い。 該当4項目····b 該当3項目・・・・c 3 構造物にクラックが良い。 4 構造物の通りが良い。 該当2項目以下・・・d 5 地山とのすりつけが良い。 6 全体的な美観が良い。

(検査員) 考査項目 細別 С 3. 出来形及 森林管理道工 品質関係の測定方法又は測定 値が不適切であったため、監 品質関係の測定方法又は測定 値が不適切であったため、検 ① 評価対象項目が当該工事において評価の対象となる場合には「対象」欄の口に「レ」印を び出来映 事 記入し、評価の対象とならない場合は空欄とする。 督員が文書で指示を行い改善 を 香員が修補指示を行った。 「レ」印を記入した項目について該当する場合は「判定」欄の口に「レ」印を記入する。 | ③ 対象欄に「レ」印のある項目数を分母として比例計算の値で評価する。 | 3) 対象側に「レ」PIDのの項目数をが好としてい物計算の間に計画する。 | 4) 評価値 (%) = 路送項目数 () /評価対象項目数 () | 5) なお、評価対象項目数が2項目以下場合はと評価とする。 | 6) また、文書による改善指示を行った場合には、上記評価によらずd、e評価とする。 Ⅱ. 品質 ┃ ┃ ┃ コンクリートの配合試験及び試験練りを行っており、コンクリートの品質(強度・w/c、最大骨材粒径、塩化物総量、単位水量、アルカリ骨材反応抑制等)が確認できる。 2 コンクリート受け入れ時に必要な試験を実施しており、温度・スランプ・空気量等の測定結果が確認できる。 В 圧縮強度試験に使用したコンクリート供試体が、当該現場の供試体であることが確認できる。 ▲ 運搬時間、打設時の投入高さ、締固め時のパイプレーターの機種及び養生方法が、施工条件及び気象条件に適しており、定められた条 件を満たしていることが確認できる。(寒中及び暑中コンクリート等を含む) 5 コンクリートの圧縮強度を管理し、必要な強度に達した後に型枠及び支保工の取り外しを行っていることが確認できる。 16 コンクリートの打設前に、打継ぎ目処理を適切に行っていることが確認できる。 7 鉄筋の組立、加工が、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。 8 スペーサーの材質及び品質が適正であることが確認できる。 9 施工基面を平滑に仕上げていることが確認できる。 取扱します。
「「おおります」
「「おいます」
「おいます」
「おいまする」
「おいます」
「おいまする」
「おいまする」
「おいまする」
「おいまする」
「おいまする」
「おいまする」
「おいまする」
「おいまする」
「おいまする」
「まいまする」
「まいます | 緑化プロック、石積 (張) 、法枠、かごマット等における材料のかみ合わせ又は連結が適切で、裏込材の吸出しがないよう行っている 2 土砂の締固めが設計図書に定められた条件を満足していることが確認できる。 8 盛土材料の土質が適正である。 4 盛土の一層あたりのまき出し厚を管理していることが確認できる。 b 植生工で、植生の種類、品質、配合及び養生が、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。 6 吹付工の吹付け厚さが均等であることが確認できる。 7 吹付工の金網の重ね幅が、10cm以上確保されていることが確認できる。 i B 吹付工に使用する材料の種類、品質及び配合が、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。 ●判断基準 り 吹付工の圧縮強度試験に使用したコンクリートの供試体が当該現場の供試体であることが確認できる。 ・該当項目が90%以上・・・・・・a 0 法枠工のアンカーを設計図書どおりの長さで施工していることが確認できる。 ・該当項目が80%以上90%未満・・・・a ■ 法枠工の現場養生が設計図書の仕様を満足するように実施されていることが確認できる。 ・該当項目が70%以上80%未満・・・・b ・該当項目が60%以上70%未満・・・・b' 2 法枠工に使用する材料の種類、品質及び配合が、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。 該当項目が60%未満・・・・・・c 3 法枠工の圧縮強度試験に使用したコンクリートの供試体が当該現場の供試体であることが確認できる。 ※評価対象項目数が2項目以下の場合はc評価とする。 4 防護柵設置要綱、視線誘導標設置基準、道路標識ハンドブック等の規定に従い適切に施工し、規格値を満足している。 5 伐開・除根作業により発生した伐開木、根株、枝条等が適切に処理されている。 6 掘削等により、立木等に損傷を与えず、また飛散の防止等にも注意を払って施工されている。 7 構造物や法面に有害なクラックがない。 8 その他 0% = 該当項目数 0 /評価対象項目数 0 評価対象項目数が2項目以下なのでC評価とする

別紙3-4-50

考查項目別運用表

				(模宜貝)	
_ #	a	b	С	d	
	優れている	やや優れている	他の評価に該当しない	劣っている	
	·		·		
森林管理道工事	●該当する項目の□に「レ」印を記入する。		●判断基準		
		0	該当6項目以上・・・a		
	2 構造物の表面状態が良い。		該当4、5項目・・・b		
	3 構造物の天端仕上げ、端部仕上げ等が良い。		該当3項目・・・・c		
	4 構造物にクラックが無い。		該当2項目以下・・・d		
	5 構造物の通りが良い。				
	6 地山とのすりつけが良い。				
	7 全体的な美観が良い。				
	工 種 森林管理道工事	機れている 森林管理道工事 ●該当する項目の口に「レ」印を記入する。 1 規定された法勾配、土羽勾配が確保されている 2 構造物の表面状態が良い。 3 構造物の天端仕上げ、端部仕上げ等が良い。 4 構造物にクラックが無い。 5 構造物の通りが良い。	機れている やや優れている やや優れている ************************************	工 種 優れている やや優れている 他の評価に該当しない 森林管理道工事 ●該当する項目の口に「レ」印を記入する。 □ 1 規定された法勾配、土羽勾配が確保されている。 □ 2 構造物の表面状態が良い。 □ 3 構造物の天端仕上げ、端部仕上げ、等が良い。 □ 4 構造物にクラックが無い。 □ 5 構造物の通りが良い。 □ 6 地山とのすりつけが良い。	

(検査員) 考査項目 細別 b b' Ч С 品質関係の測定方法又は測定 値が不適切であったため、監 3. 出来形及 品質関係の測定方法又は測定 防食工事 ① 評価対象項目が当該工事において評価の対象となる場合には「対象」欄の口に「レ」印を び出来映 値が不適切であったため、検 記入し、評価の対象とならない場合は空欄とする。 え 督員が文書で指示を行い改善 査員が修補指示を行った。 ② 「レ」印を記入した項目について該当する場合は「判定」欄の口に「レ」印を記入する。 された。 ③ 対象欄に「レ」印のある項目数を分母として比例計算の値で評価する。 ④ 評価値 (%)=該当項目数 ()/評価対象項目数 () ⑤ なお、評価対象項目数が2項目以下の場合はc評価とする。 ⑥ また、文書による改善指示を行った場合には、上記評価によ また、文書による改善指示を行った場合には、上記評価によらずd、e評価とする。 対象 判定 Ⅱ.品質 劣化部が健全なコンクリート面が得られるまで除去されていることが確認できる。 劣化部除去時の超高圧水の水圧が確認できる。 断面修復材の品質が適正であることが確認できる。 断面修復工の接着強さが適正であることが確認できる。 素地調整材やプライマーの品質が適正であることが確認できる。 ▶防食被覆材の品質が適正であることが確認できる。 ●判断基準 ・該当項目が90%以上・・・・・ a 防食被覆工施工時の環境が適正であることが確認できる。 ・該当項目が80%以上90%未満・・・・a **「防食被覆工の接着強さが適正であることが確認できる。** ・該当項目が70%以上80%未満・・・・b その他 ・該当項目が60%以上70%未満・・・・b' 理由 ・該当項目が60%未満・・・・・ c 評価値 0% = 該当項目数 0 /評価対象項目数 0 評価対象項目数が2項目以下なのでC評価とする

別紙3-4-51

考査項目別運用表

					(大量具/
考査項目	工種	а	b	С	d
万直坝口	工 作里	優れている	やや優れている	他の評価に該当しない	劣っている
3. 出来形及 び出来映 え Ⅲ. 出来映え	防食工事	●該当する項目の口に「レ」印を記入する。 1 断面修復が平坦で、浮きやひび割れが無い。 2 素地調整が平坦密実に仕上げられている。 3 プライマーが均一で欠陥なく塗布されている 4 塗布型防食にあっては、ピンホール試験を実 5 防食被覆が平滑で、樹脂硬化不良が無い。		●判断基準 該当4項目以上・・・a 該当3項目・・・・・b 該当2項目・・・・・c 該当1項目以下・・・d	

(検査員)

考査項目	細別	а	a'	b	b'	С	d	е
3. 出来形及 び出来映 え		記入し、評価の対象とな ② 「レ」印を記入した項目 ③ 対象欄に「レ」印のある ④ 評価値(%)=該 ⑤ なお、評価対象項目数が ⑥ また、文書による改善指	において評価の対象となる場合 らない場合は空欄とする。 について該当する場合は「判定 項目数を分母として比例計算の 当項目数())/評価対象項 2項目以下の場合は。評価とす 示を行った場合には、上記評価	」欄の□に「レ」印を記入する 値で評価する。 目数 () る。			出質関係の測定方法又は測定 値が不適切であったため、監 督員が文書で指示を行い改善 された。	品質関係の測定方法又は測定 値が不適切であったため、検 査員が修補指示を行った。
I. 品質		2 品質試験は、援 3 共通仕様書・関 4 施工規定の管理 5 使用材料の品質 6 品質管理及び記 7 使用する材料の 8 現地状況を勘算 9 施工箇所以外の 10 施工条件や気気 11 対象物に有害を 12 水平度、鉛直度	いての工事記録写真が整理されては i度・項目とも必要数実施されてい 連基準書等の施工規定が守られ 理について、記録が整理されてい。 質規格証明書(ミルシート・検査証 記録の整理に創意工夫が見られた)品質・形状等が適切であり、かっ 足し、施工方法や構造についての。)の部分に損傷を与えないよう工夫 象条件を考慮して施工したことが確 よクラック、損傷が無い。 (等が、設計図書を満足しているこ 由: 該当項目数 0 / 評価:	る。 ている。 ている。 る。 明書等)が整理されている。 こ。 り現場において材料確認を適宜・ 提案を行うなど積極的に取り組ん していることが確認できる。 を認できる。		.)	●判断基準 ・該当項目が90%以上・・・・ ・該当項目が80%以上90%未満 ・該当項目が70%以上80%未満 ・該当項目が60%以上70%未満 ・該当項目が60%未満・・・・	i · · · · · a' i · · · · · b i · · · · · b'

別紙3-4-52

考査項目別運用表

					(1)	
考査項目	工種	а	b	С	d	
		優れている	やや優れている	他の評価に該当しない	劣っている	
3. 出来形及						
ひ出来映	総合工種	●該当する項目の□に「レ」印を記入する。		●判断基準		
1 ~		1 構造物の形状外観及び通りが良い。		該当4項目以上・・・a		
皿. 出来映え		2 構造物の表面仕上げが、仕様書の規定どおりに行	ī われている。	該当3項目・・・・b		
		3 構造物の表面仕上げが、ていねいで均一に行われ	ıている。	該当2項目・・・・・c		
		4 隣接構造物・地山等との取付け・すり合せがよい。		該当1項目以下・・・d		
		5 構造物の仕上りは、使用目的・使用者の安全に配	慮されている。			
		1				

(検査員) 考査項目 細別 3. 出来形及 総合工種 び出来映 え 細別 e 品質関係の測定方法又は測 定値が不適切であったた め、検査員が修補指示を 行った。 品質関係の測定方法又は測 定値が不適切であったた め、監督員が文書で指示を 行い改善された。 ① 評価対象項目が当該工事において評価の対象となる場合には「対象」欄の口に「レ」印を記入し、評価の対象とならない場合は空間とする。
② 「レ」印を記入した項目について該当する場合は、甲則定、欄の口に「レ」印を記入する。
③ 対象側に「レ」印のある項目数を分浄として比例前半級の値で評価する。
④ 評価値(● ● ● 無益項目数() / 評価が集項目数() 6 およ、評価が象項目数が() 6 およ、評価が象項目数が() 6 およ、評価が象項目数が() 6 およ、評価が多項目数がで減り目以下の場合は、評価でよる。6 また、文書による改善指示を行った場合には、上記評価によらずd、e評価とする。 対象 判定 I. 品質 1 路床及び路盤エのプルーフローリングを行っていることが確認できる。 1 時床及び軽単工のJAMープレーリンを打つしたことが確認できる。 2 路床及び路壁工の締固かの仕上がり厚は、設計図書のとおり行われていることが確認できる。 3 路床及び路壁工の密度管理が、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。 4 7A77AF混合物の温度管理が、適切に整理・記録され、基準を満たしてることが確認できる。 □ 14 コンリート受け入れ時に必要な試験を実施しており、温度、スランブ、空気量等の測定結果が確認できる。 □ 15 圧縮強度試験に使用したコンクリート供試体が、当該現場の供試体であることが確認できる。 □ 14 コンソック □ 15 圧縮強度 □ 16 その他 ſ 理由:
- 該当項目数 0 評価対象項目数 0 評価対象項目数が2項目以下なのでご評価とする

別紙3-4-53

考査項目別運用表

(検査員) 考査項目 細別 品質関係の測定方法又は測 定値が不適切であったた め、監督員が文書で指示を 行い改善された。 B 品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、検査員が修補指示を行った。 評価対象項目が当該工事において評価の対象となる場合には「対象」欄の口に「レ」印を記入し、評価の対象とならない場合は空機とする。 「レ」即を記入した項目について該当する場合は「判定」欄の口に「レ」印を記入する。 対象機能「「レ」即のある項目数を分母として比例計算の値で評価する。 評価値(%) 実践当項目数() / 評価対象目数() なお、評価が乗り割数が互関し下の場合はで関値とする。 また、文書による改善指示を行った場合には、上記評価によらず」、e評価とする。 対象 判定 1 路床及び路盤エのプルーフローリングを行っていることが確認できる。 2 路床及び路盤工の締固めの仕上がり厚は、設計図書のとおり行われていることが確認できる。 3 路床及び路盤工の密度管理が、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。 4 アスファルト混合物の温度管理が、適切に整理・記録され、基準を満たしてることが確認できる。 ●判断基準 - 該当項目が90%以上・・・・ - 該当項目が90%以上90%未滿 -- 該当項目が70%以上80%未滿 -- 該当項目が60%以上70%未滿 -- 該当項目が60%未滿 -5 舗装の各層の継ぎ目が、仕様書に定められた数値以上であることが確認できる。
6 縦継目、横継目及び構造物との接合面に瀝青材を適量塗布していることが確認できる。 7 乳剤の散布量が、仕様書に定められた数値以上であることが確認できる。 塩化物板塩、単位水重、アルカリ育材及心中制等力が確認できる。
14 コンクリート受け入れ時に必要な試験を実施しており、温度、スランブ、空気量等の測定結果が確認できる。
15 圧縮強度試験に使用したコンクリート供試体が、当該現場の供試体であることが確認できる。
16 マンボール用品の規格・品質がミルシートで確認できる。
18 管材等の工事資材が適切に保管されていることが確認できる。 П □ 15 cm...
□ 16 でルホール用品のルホ...
□ 17 管集の規格・品質がエルシートで確認。...
□ 18 管柱等の工事契材が適切に保管されていることか確認。...
□ 19 生理工が適切に施工されている。
□ 20 振削時の湧水等に対して、適切な排水対策を実施している。
□ 21 埋更し、練園かを適切な条件で施工しており、管の周辺に空隙が生じていない。
□ 22 管路底付面が長身な仕上げたかっている。
□ 27 で場合状況が良好であることが確認できる。
□ 27 では合れ、配管状況を含む)されていることが確認できる。
□ 27 では合れ、配管状況を含む)されていることが確認できる。
□ 27 では、配管状況を含む)されていることが確認できる。
□ 27 では、配管状況を含む)されている。
□ 27 では、配管状況を含む。これでは、ことが確認できる。
□ 27 では、配管状況を含む)されている。
□ 27 では、配管などを整理・記録されている。
□ 27 では、配管などを整理・記録されている。
□ 27 では、配管などを発達されている。
□ 27 に施工されている。
□ 27 に施工されている。
□ 27 に表すを発揮・記録されている。
□ 27 に表すを発揮・記録されている。
□ 27 によっている。□ 28 によっている。□ 27 によっている。□ 27 によっている。□ 28 によっている □ 23 音楽心球は「小小・・・・・ 24 取付管が適切に能工(接合、配管状況を含む)されていることか嫌認 できゅ。 □ 25 舗装復旧が施工管理基準に基づき、適切に施工されている。 □ 26 混合物の温度管理が、ブラント出荷時・現場到着時・舗設時等で整理・記録されている。 □ □ 27 その他 ſ 理由: 評価値 0% = 該当項目数 0 /評価対象項目数 0 評価対象項目数が2項目以下なのでC評価とする

別紙3-4-54

考査項目別運用表

(検査員) 者杏項日 工種 優れている やや優れている 他の評価に該当しない 総合工種 該当する項目の口に「レ」印を記入する。□ 1 舗装の平均性が良い ●判断基準 該当10項目以上・・ 3 (場合の口に「レ」のでは、
 1 舗装の平坦性が良い。
 2 構造物等への擦り付けが良い。 該当7、8、9項目・・・・b 該当4、5、6項目・・・・c 該当3項目以下・・・・・d Ⅲ. 出来映え 3 構造物等の通りが良い。 4 隣接構造物等との取付け・すり合せがよい。 5 構造物の仕上りは、使用目的・使用者の安全に配慮されている。 6 管の通りが良い。 7 漏水が無い。 8 クラックが無い。 マンホール天端と路面とのすりつけが良い。
 マンホールス端と路面とのすりつけが良い。
 マンホールのインパートの仕上げが良い。
 # 施工管理記録等から不可視部分の出来ばえの良さが伺える。

別紙3-3-55

考查項目別運用表

(検査員) 考査項目 細別 ・出来形及 び出来映え え ランド・コート舗装工事 (野球場・芝舗 ランド・デスコート等) 対象 判定 I. 品質 対象判定 1 施工に先立ち、CBR値測定、プルフローリング等を行い、支持地盤(路床)の確認を行っている。 2 施工基盤が平滑に仕上げられていることが確認できる。 3 材料の品質証明が適切で、保管状態が良い。 4 混合土、床土の配合試験(土壌試験)が行われており、品質の規格(粒度、含水比、透水係数、硬度、土壌改良材等)が確認できる。 5 各層(混合土等)の品質管理方法が明確で、品質確保に創意工夫が見られる。 6 植生(芝)の種類、品質、施工後の養生が適切である。 7 その他 ●判断基準 ・該当項目が90%以上・・・・・・a (理由: - 該当項目が90%以上・・・・ a - 該当項目が80%以上90%未満・・・ b - 該当項目が70%以上80%未満・・・ b - 該当項目が60%以上70%未満・・・ b 該当項目が60%未満・・・・・・c 評価値 0% = 該当項目数 0 /評価対象項目数 0 評価対象項目数が2項目以下なのでC評価とする

別紙3-4-55

考査項目別運用表

別紙3-3-56

考查項目別運用表

(検査員) 考査項目 細別 ・出来形及 さく井工事 ① 評価対象項目が当該工事において評価の対象となる場合には「対象」欄の口に「レ」印を記入し、評価の対象となるない場合は定職とする。
② 「レ」即を記入し、評価の対象となるない場合はで開めます。
③ 対象欄に「レ」即のある項目数を分母として比例計算の値で評価する。
④ 評価値 (%) 最近3月散 () 光評価所達用量数 ())。
⑤ なお、評価対境項目数が2項目以下の場合はご評価さずる。
⑥ また、交響による改善所を行った場合は、上記評価によっす。。 I. 品質 1 工事に先立ち地下水に対する地盤調査等の分析が入念になされている。 2 掘削記録及び電気検層結果等が適切に管理されている。 3 揚水試験が仕様書どおり適切に実施されている。 4 孔内の仕上げが仕様書どおり適切に実施されている。 6 フィルター材、埋め戻し等が入念に施工されている。 ●判断基準 ・該当項目が90%以上・・・・・a 7 ケーシング等挿入、接合作業等が適切に実施されている。 - 該当項目が90%以上・・・・ a - 該当項目が80%以上90%未満・・・ b - 該当項目が70%以上80%未満・・・ b - 該当項目が60%以上70%未満・・・ b 理由 ・該当項目が60%未満・・・・・・c 評価値 0% = 該当項目数 0 /評価対象項目数 0 評価対象項目数が2項目以下なのでC評価とする

別紙3-4-56

考查項目別運用表

(検査員) 考査項目 工 種 優れている やや優れている 他の評価に該当しない 劣っている 出来形及 び出来映 ●該当する項目の口に「レ」印を記入する。

□ 1 孔口の保護が適切になされている
□ 2 掘削スライム、泥水等の処理が減 ●判断基準 孔口の保護が適切になされている。 該当3項目以上・・・a Ⅲ. 出来映え 掘削スライム、泥水等の処理が適切になされている。 該当2項目・・・・b □ 3 ケーシング、スクリーン等が適正に施工されている。 該当1項目・・・・c 全体的な美観が良い。 該当項目なし・・・・d

考査項目 細別 b' b С d <A> 品質関係の測定方法又は測定 値が不適切であったため、監 督員が文書で指示を行い改善 品質関係の測定方法又は測定 値が不適切であったため、検 3. 出来形及 上記以外の工 優れている bより優れている やや優れている cより優れている 他の評価に該当しない び出来映 査員が修補指示を行った。 え 文は合併工事 された。 Ⅱ. 品質 対象 判定 1111111 理由: 理由: 理由: 理由: III理由: 理由: 評価値 0% = 該当項目数 0 /評価対象項目数 0 評価対象項目数が2項目以下なのでC評価とする <A> 対象工事がばらつきによる評価が不適切な工事

別紙3-4-57

・該当項目が90%以上・・・・・ a

・該当項目が80%以上90%未満・・・・ a' ・該当項目が70%以上80%未満・・・・b

・該当項目が60%以上70%未満・・・・ b
・該当項目が60%以上70%未満・・・・ b

※評価対象項目数が2項目以下の場合はc評価とする。

考査項目別運用表

 対象工事がばらつきによる評価が適切な工事

(烩杏昌)

(検査員)

					(検査員)
考査項目	工種	а	b	С	d
		優れている	やや優れている	他の評価に該当しない	劣っている
3. 出来形及 び出来映 え 皿. 出来映え	又は合併工事	●該当する項目の口に「レ」印を記入する。		●判断基準 該当4項目以上・・・a 該当3項目・・・・b 該当2項目・・・・。c 該当1項目以下・・・d	
		理由: 理由: 理由: 理由: ※合併工事は、該当工種からの評価対象項目で評	価を行う。ただし、評価対象項目は最大5項目とする。		

① 評価対象項目が当該工事において評価の対象となる場合には「対象」欄の口に「レ」印を

新記入し、評価の対象とならない任計画の対象となる場合には「対象」側の口に「レ」印を記入し、評価の対象とならない場合は空間とする。 ② 「レ」印を記入した項目について該当する場合は「判定」欄の口に「レ」印を記入する。

⑥ また、文書による改善指示を行った場合には、上記評価によらず d、e評価とする。

③ 対象欄に「レ」印のある項目数を分母として比例計算の値で評価する。

別紙3-3-58

考査項目別運用表

(検査員) 考査項目 細別 □ 品質関係の測定方法又は測 定値が不適切であったた め、監督員が文書で指示を 行い改善された。 品質関係の測定方法又は測 定値が不適切であったた め、検査員が修補指示を 行った。 . 出来形及 び出来映 その他複合エ I. 品質 対象 判定 複合工事 (1) 【例1コンクリート】★名称を及び検査項目を配入してください 評価値 0% = 該当項目数 0 /評価対象項目数 0 接合工事(2)
工事比率
0.3

□ □ 13
□ □ 14
□ □ 15
□ □ 16
□ □ 17
□ □ 18
□ □ 19
□ □ 20
□ □ 21
□ □ 22
□ □ 23

評価値 05 = 該当項目数 0 / 評価対象項目 ●判断基準
- 該当項目が90%以上・・・ a
- 該当項目が90%以上的96未満・・ a
- 該当項目が70%以上的96未満・ b
- 該当項目が60%以上7096未満・ b 評価値 0% = 該当項目数 0 /評価対象項目数 0 複合工事(3) 工事比率 【例1コンクリート工事】★名称を及び検査項目を配入してください 【例1コンク! □ □ 24 □ □ 25 □ □ 26 □ □ 27 □ □ 28 □ □ 29 □ □ 30 □ □ 31 □ □ 32
 0%
 = 該当項目数
 0
 /評価対象項目数
 0

 0%
 = 該当項目数
 0
 /評価対象項目数
 0
 評価値 評価値 工事比率による品質の評価計= 0% 別紙3-4-58

					(検査員)			
考查項目	工 種	a	b	c	d			
为且供口		優れている	やや優れている	他の評価に該当しない	劣っている			
3. 出来形及		●該当する項目を記入し、項目の口に「レ」印を記入する。 ●判断基準						
び出来映	複合工事(1)	□ 1 施工管理記録などから不可視部分の出来ばえの良さが伺える。		該当5項目以上・・・a				
~		□ 2 通りが良い。		該当4項目・・・・b				
Ⅲ. 出来映え	工事比率	3 端部及び天端の仕上げが良い。		該当3項目・・・・・c				
	0. 4	□ 4 構造物の表面状態が良い。		該当2項目以下・・・d				
		5 パラペットを含め本体にクラックや損傷が無い(補修痕が無い)。						
		□ 6 全体的な美観が良い。						
		複合工事(1)の出来映えの評価=	0					